

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘキ金額、支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令ニハ支出ノ證據ニ必要ナル書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヨリ之ヲ會計主務官ニ交付スヘシ

第三十六條 會計主務官其仕拂命令ヲ正當ト認ムルトキハ之ニ「調定濟」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 會計主務官前條ニ據リ仕拂命令ヲ不當ト認ムルトキハ其事由ヲ本屬大臣ニ申立ヘシ

本屬大臣會計主務官ノ申立ニ拘ハラス仕拂命令ヲ發スヘキコトヲ命スルトキハ會計主務官ハ仕拂命令ニ「特命調定」ト記入シ署名捺印シテ之ヲ受取人ニ交付スヘシ但仕拂命令ノ金額若シ仕拂豫算額ニ超過スルトキハ本屬大臣ノ特命ヲ受クト雖モ尙ホ大藏大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第三十八條 會計主務官仕拂命令ヲ受取人ニ交付シタルトキハ同時ニ金庫ニ案内仕拂命令ヲ送付スヘシ但第三十六條但書ニ據リ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シタル場合ニ於テモ亦同シ

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ  
第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限りハ成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以内ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未満ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年内ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス  
第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ



第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度八月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整理スヘシ

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

### 第三款 計算報告

第四十九條 會計主務官ハ其支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月支出報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ各省中央會計主務官ニ送付スヘシ

第五十條 各省中央會計主務官ハ各會計主務官ヨリ送付シタル支出報告書ニ據リ毎月支出總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

### 第五章 決算

#### 第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其

省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

### 第二款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算

第三 最近五箇年度間ニ於ル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

#### 第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ

管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五箇年度間資金ノ増減

第四 最近五箇年度間損益ノ比較

### 第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入

#### 第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ  
本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ



第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ事由ヲ示シ又請負コトヲ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

第六十條 各省大臣過年度ニ屬スル經費ヲ支出セントスルトキハ其金額及其所屬年度ノ豫算ニ定メタル區分、年度、支出ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ翌月十日以内ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第六十一條 前條ニ據リ大藏大臣ノ承認ヲ經タル經費ヲ仕拂フ爲メ各省大臣ハ其承認ヲ經タル年度ノ各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 各省大臣會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ定額戻入要求書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クヘシ

第六十四條 定額戻入要求書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 戻入ルヘキ金額

第二 金庫ニ於テ返納金ヲ領收シタル日付

第三 前金渡概算渡線替拂ヲ爲シタル仕拂命令ノ金額、年度、科目、番號、日付

第四 戻入ノ事由

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ノ要求ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第六十六條 大藏大臣各省大臣ノ要求ニヨリ定額ノ戻入ヲ檢視シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第六十八條 前條ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ



第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上  
第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス。

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法を以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少クモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル吏官ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ違セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、任譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラザレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ左ノ書類ノ一ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第一 設計任譯書ノ末ニ請負人ノ署名捺印シタルモノ

第二 請負人ノ署名捺印セル承諾書

第三 商業上ノ習慣ニ從ヘル往復書

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 會計主務官、收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官ヲ定メタルトキ其代理官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官ハ其代理シタル所爲ニ付會計法第二十六條ノ責



任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ各省大臣ニ隸屬シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第八十七條 會計主務官トナルヘキ官吏ノ任命罷免ハ豫メ大藏大臣ノ同意ヲ要ス但陸海軍武官ニ係ル場合ハ本條ノ限コアラズ

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證憑書類ヲ添ヘ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏交替ノトキハ本屬大臣ヨリ特ニ命シタル検査員ノ立會ヲ以テ會計事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル能ハサル

トキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書ニ通テ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 會計主務官ハ毎年度經過後五箇月以内又收入官吏ハ毎年度經過後七箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ其所屬省又ハ歳入ノ事務管理廳ニ送付スヘシ

第九十六條 各省又ハ歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證憑書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ



行軍若シハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過六十日以内ニ其在職期限間ニ執行

シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命

シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ檢

査判決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第一百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議

シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全

部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ大藏

大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第一百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ

得

第一百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ大藏大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ

私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ

第一百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定

シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ、ルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣ノ通知ニ依リ大藏大

臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スル

コト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第一百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ

其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徴收スヘシ

第一百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金

ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタル間ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第一百八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定

規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追

納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第一百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ

生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ル

コトヲ得ス

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減

少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第一百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付

責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス



第二款 金庫出納役

第百十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ大藏大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿

第百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第百十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十六條 會計主務官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令調定濟額ヲ登記スヘシ

第百十七條 各省中央會計主務官ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ歳出豫算額仕拂命令調定濟額ヲ登記スヘシ

第百十八條 現金ヲ領收スル收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜則

第百二十條 本規則ニ據リ會計主務官、收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○歳入歳出豫算概定順序

明治二十二年三月二十七日

閣令第十二號

第一條 歳入ノ事務管理廳ハ毎年度歳入概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 歳入概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項目ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第三條 各省大臣ハ毎年度歳出概算書ヲ調製シ前々年度三月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 歳出概算書ハ各省ノ所管經費ヲ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫

歳入歳出豫算概定順序



算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第五條 大藏大臣ハ各廳ノ歳入概算書及歳出概算書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入出總概算書ヲ調製シ前年度四月十五日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第六條 歳入出總概算書ハ歳入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第七條 内閣ニ於テハ前年度四月三十日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ

第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費每項ノ概算額以內ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第九條 歳入概算書及歳出概算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十條 明治二十三年度豫算ニ限り前各條ノ期限ヲ一箇月間延スコトヲ得

○豫定經費算出概則

明治二十二年六月十日  
閣令第十九號

第一條 經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ

第二條 經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ

第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各々其據ル所ヲ示スヘシ

第四條 一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價格ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示スヘシ

第五條 給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時備入及解備ヲナス人員ハ前々年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ

第六條 物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ

第七條 國債償還ノ金額(定期アルモノハ除ク)ハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手数料ハ定期ニ據リ之ヲ豫算スヘシ

第八條 常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ

第九條 法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ

第十條 前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ



○政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約方

明治二十三年九月一日

勅令第九十三號

朕政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

○物品會計規則 明治二十二年六月十一日

朕物品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

物品會計規則

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責任ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約方

物品會計規則



第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ  
物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入生  
産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十一條 當時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏  
交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年  
一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書  
ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十一條第十二條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレ  
タル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 各省大臣ハ一般ノ會計規則ニ據ルモノト特別ノ會計規則ニ據ルモノトヲ區分シ毎年度  
間ニ買入生産及其ノ他政府ノ所有ニ歸シタル物品ト消耗賣拂亡失毀損又ハ生産ノ爲メニ消費シ  
其ノ他政府ノ離權シタル物品ノ數量價格ヲ記シタル報告書ヲ調製シ年度後六箇月以内ニ之ヲ大  
藏省ニ送付スヘシ但シ官有財産管理規則ニ據リ送付スル計算書ニ掲クルモノヲ除ク

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計  
算書ヲ製シ年度後四箇月以内ニ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ本属大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死  
亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シ  
テ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シ

タルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査  
書ヲ添付シテ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 當時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク  
能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條  
ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 物品會計官吏ノ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十條 物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之  
ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

○文具支給規則 明治二十二年二月七日 閣令第四號

文具支給規則ヲ定メ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス

文具支給規則

第一條 此規則ニ於テ文具ト稱スルハ左ノ物品ヲ總稱ス

- 筆
- ペン
- 鉛筆
- 朱墨
- インキ
- 檢印用印肉
- 卷紙
- 墨
- 押紙

文具支給規則



硯石 硯箱  
 小刀 錐  
 文鎮 檢印用肉池  
 綴金及留金 鳥口  
 第二條 官吏及備員ニ給スル文具ハ現品ヲ以テ給セス一箇月金貳拾五錢以內適宜等級ヲ分テ其支給額ヲ定メ代料ヲ以テ給スヘシ  
 第三條 職掌上高價ノ文具ヲ要スルモノアルトキハ各省大臣大藏大臣ト協議シ特ニ現品ヲ以テ支給スルコトヲ得  
 第四條 各省大臣ハ第二條ニ依リ定メタル文具代料ノ等級金額ヲ大藏大臣並ニ會計検査院ニ通知スヘシ

○仕拂命令委任規程 明治廿二年七月二日 勅令第八十九號  
 朕仕拂命令委任規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

仕拂命令委任規程  
 第一條 各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發セシムルトキハ會計規則第十條ニ據リ仕拂豫算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ  
 第二條 委任ヲ受タル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス



○出納官吏身元保證金ノ件 明治二十三年一月十八日 勅令第四號  
朕出納官吏身元保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ノ出納官吏ニシテ其取扱金額一箇年五百圓以上又ハ常時保管スル物品ノ價格千圓以上ニ達スルモノハ身元保證金ヲ納ムヘシ

第一 現金ノ領收ヲ常職トスル官吏

第二 常時現金前渡ヲ受クル官吏

第三 物品會計官吏

第二條 身元保證金ハ就職ノ時納付スヘキモノトス但現ニ明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニ限リ明治二十三年四月以後明治二十八年三月マテ五箇年間ヲ期シ其身元保證金額ヲ平分シ毎年四期又ハ毎月ニ之ヲ納付セシムヘシ

前項明治二十三年四月一日ニ在職セル出納官吏ニシテ土地若クハ公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用セントスル者ハ明治二十三年九月マテ同一時ニ納付セシムヘシ

第三條 身元保證金ニ代用セントスル公債證書ハ有利足シモノヲ以テシ其價格ハ明治二十三年三月中東京取引所平均ノ相場ニ依リ爾後五箇年毎ニ其年三月中ノ同所平均相場ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ但明治二十三年三月以後新ニ發行シタル公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ爾後本條ノ期限ト同時ニ其價格ヲ改定スヘシ

第四條 身元保證金ニ代用セントスル土地ノ價格ハ總テ土地臺帳ニ登記ノ價格ニ依ルヘシ

第五條 會計規則第百五條第二項ニ依リ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ヲ公賣スル

トキ其公賣公告入費ハ損失金ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏ヲシテ辨償セシムヘシ  
第六條 出納官吏ノ身元保證金納入拂戻等ニ關スル取扱規則ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

○出納官吏身元保證金取扱規則 明治二十三年一月二十五日 大藏省令第二號

本年勅令第四號第六條ニ依リ出納官吏身元保證金取扱規則左ノ通り相定ム

出納官吏身元保證金取扱規則

第一條 出納官吏會計規則第百三條ニ依リ現金ヲ以テ身元保證金ヲ納付セントスルトキハ其現金ヲ預金局預金ノ取扱所ニ預ケ入其保管證書ヲ得之ニ納付書ヲ添へ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ納付スヘシ

第二條 出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ各省大臣定ムル所ノ規程ニ依リ認可ヲ得タル後土地ノ所在地價格及登記ヲ受ケントスル日限ヲ記シタル請求書ニ通テ製シ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三條 大藏大臣ハ前條ノ申出ニ依リ登記日限ヲ定メ土地所在地ノ北海道廳長官府縣知事ニ命シ登記法第二十一條ノ手續ヲ代理セシムヘシ

第四條 北海道廳長官府縣知事ハ土地ノ登記ヲ了シタルトキハ其書入證書ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五條 出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ現金ニ代用スル公債證書ハ記名トシ利札付ノマ、之ヲ金庫ニ預ケ入レ其保管證書ヲ得之ニ書入證書ヲ添へ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ納

出納官吏身元保證金ノ件  
出納官吏身元保證金取扱規則



付スヘシ

第六條 大藏大臣ハ前四條ニ依リ身元保證金ノ納付済トナリタルトキ其納付済證ヲ製シ各省大臣ヲ經テ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ但シ明治二十三年勅令第四號第二條但書ノ場合ニ於テ大藏大臣ハ納付ノ都度其假納付證ヲ交付シ完納ニ至テ納付済證ト交換スヘシ

第七條 明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ據リ身元保證金ヲ納付スルモノハ本年二月末日マテニ四期納付又ハ毎月納付ノ一ヲ撰ミ各省大臣ハ願出ツヘシ

各省大臣ハ前項ノ情願ヲ認可シタルモノヲ取纏メ本年三月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ニ通知スルモノトス

第八條 明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ據リ身元保證金ヲ納付スルモノハ左ノ期限ニ依ル

四期納付ノ分

第一期 六月末日マテ

第二期 九月末日マテ

第三期 十二月末日マテ

第四期 三月末日マテ

毎月納付ノ分

毎月末日マテ

第九條 出納官吏土地若クハ公債證書ヲ以テ現金ニ代用シタル場合ニ於テ明治二十三年勅令第四號第三條及ヒ第四條ノ計算ニ依リ身元保證金額ニ對シ過剩ヲ生スルコトアルモ其儘納付スルハ妨ナシ

第十條 出納官吏公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用シタル場合ニ於テハ其利子渡期ニ至リ前ニ公債證書ヲ預入タル金庫ニ於テ其利札ヲ受取ルヘシ

第十一條 會計規則第一百條ニ依リ身元保證金ノ拂戻ヲ要スルトキハ出納官吏ハ各省大臣ヲ經由シテ責任解除ヲ得タルコトヲ大藏大臣ニ證明シ身元保證金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第十二條 身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ大藏大臣ヨリ各省大臣ヲ經テ保管證書又ハ書入證書ヲ出納官吏ニ返付スヘシ又土地ハ大藏大臣其書入證書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付シ書入ノ解除ヲナス爲メ登記法第二十三條ノ手續ヲ代理セシメ書入證書ヲ出納官吏ニ返付セシムヘシ

前項保管證書又ハ書入證書ハ身元保證金ノ納付済證ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第十三條 前條ニ依リ北海道廳長官府縣知事ニ於テ土地書入解除ノ手續ヲ了シタルトキハ其旨

大藏大臣ニ届出テ大藏大臣ハ其旨ヲ各省大臣ニ通知スヘシ

第十四條 會計規則第一百五條ニ依リ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テントスルトキハ各省大臣ヨリ會計検査院判決書ノ寫ヲ添ヘテ其旨ヲ大藏大臣ニ照會スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ大藏大臣ハ直ニ各省大臣ノ照會ニ應シ出納官吏ノ身元保證金(土地公債證書)ヨリ損失金ノ辨償ニ充ツヘキ金額ヲ差引シ其旨各省大臣及ヒ出納官吏ニ通知スヘシ

第十五條 大藏大臣ハ會計規則第一百五條第二項ノ場合ニ於テ土地公債證書ヲ公賣シタルトキハ

同時ニ出納官吏ニ向テ公賣公告入費ノ辨償ヲ命スヘシ

第十六條 會計規則第一百五條第三項及ヒ第六條ノ場合ニ於テ各省大臣ハ直ニ其辨償追徴ノ手續ヲ履行シ其始末ヲ大藏大臣ニ通知スルモノトス

第十七條 會計規則第一百八條ニ依リ各省大臣身元保證金ノ追納期限ヲ指定シタルトキ及ヒ會計



規則第九條第一項ニ依リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ各省大臣ヨリ其追納期限及ヒ増納期限起算日ヲ大藏大臣ニ通知スルモノトス

四四

○出納官吏身元保証金納付方

明治二十三年六月廿八日  
大藏省訓令第百八號

現金領收、現金前渡、物品會計等ノ數職ヲ兼スル出納官吏身元保證金ハ各種類毎ニ區別シ納付スヘシ  
二人以上連帶責任ノ出納官吏ノ身元保證金ハ各其納金額ヲ各自ニ區別シ納付スヘシ但シ納付書ニ何ノ誰連帶ノ旨ヲ付記スルモノトス  
四期納ノモノ其納付金ヲ一回若クハ二回ニ前納シ毎月納ノモノ數箇月分ヲ併セテ前納シ又ハ納付殘額ヲ一時ニ皆納スルハ妨ケナシ此等ノ場合ニ於テハ納付書ニ其旨ヲ付記スルモノトス

○金庫規則

明治二十二年十二月十一日  
勅令第百二十六號

朕金庫規則ヲ裁可シ茲ニ之ニ公布セシム

金庫規則

第一條 金庫ハ國庫ニ於テ保管出納スル現金ヲ取扱フ所トス  
第二條 金庫ヲ分テ左ノ三種トス

第一 中央金庫

第二 本金庫

第三 支金庫

第三條 東京ニ中央金庫ヲ置キ各府縣廳下東京府ヲ除ク及北海道札幌函館根室ニ本金庫ヲ置ク  
大藏大臣ハ右ノ外必要ト認ル場所ニ支金庫ヲ設置スヘシ

第四條 金庫ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第五條 中央金庫ハ各地ノ本金庫ヲ統轄シ本金庫ハ所屬ノ支金庫ヲ總轄ス  
但東京府下ノ支金庫ハ直ニ中央金庫ニ於テ總轄ス

第六條 中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

第七條 日本銀行ハ本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ヲ取扱フ爲メ各地ニ其支店又ハ代理店ヲ設置スヘシ

第八條 日本銀行ノ支店長又ハ日本銀行ノ代理店長ハ金庫出納役ノ代理人トシテ其事務ヲ分擔スヘシ

出納官吏身元保証金納付方  
金庫規則

四五



但代理店ノ支店ニ於テ金庫ノ事務ヲ取扱フトキハ代理店長其支店長ニ代理ノ事務ヲ委囑スヘシ

第九條 日本銀行ハ第七條ニ據リ各地ノ代理店ヲ定メントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ要ス

第十條 大藏大臣ハ検査官吏ヲ派出シ何時ニテモ金庫ノ金櫃帳簿ヲ検査スルコトヲ得

此場合ニ於テハ日本銀行本支店代理店タル銀行全部ノ金櫃帳簿ヲ併セテ検査スルコトアルヘシ

第十一條 日本銀行ハ中央金庫本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ニ付政府ニ對シ一切ノ責任ヲ有ス

第十二條 金庫ニ於テ備フヘキ帳簿ノ種類其規程出納ノ順序及金庫ノ検査規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○預金取扱規程 明治二十三年十一月十三日 大藏省令第三十三號

明治十八年五月 布告第十三號預金規則及明治二十三年八月 法律第七十五號ニ關スル預金取扱規程左ノ通相定メ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

但明治十八年六月 大藏省第八十八號告示預金取扱手續ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

預金取扱規程

第一條 預金ノ受渡ハ東京市内ハ大藏省預金局其他各地ハ本支金庫ニ於テ取扱フモノトス

第二條 預ケ金ヲナサントスルトキハ現金ニ第一號書式ノ拂込書及第二號書式ノ印鑑各々ニ添

ヘ預金取扱所東京市内ハ大藏省預金局其他各地ハ本支金庫ニ添付シテ提出スヘシ但第二回以後ノ預ケ金ヲナサントスル場合ニハ印鑑ヲ要セス

第三條 預金取扱所ニ於テ現金ヲ領収シタルトキハ第三號書式ノ預金通帳ニ記入證印シ之ヲ預ケ人ヘ交附スヘシ

第四條 各地金庫ニ於テ取扱ヒタル預金ハ其報告ニ依リ大藏省預金局ノ帳簿ニ登記シ其旨同局ヨリ預ケ人ヘ通知スヘシ

第五條 各地金庫ヘ預ケ金ヲナシタル後左ノ期限内ニ前條ノ通知ヲ受ケサルトキ又受ケタルモ金員年月日ニ相違アルトキハ書面ヲ以テ直ニ大藏省預金局ヘ申出ヘシ

東京ヨリ 百里未満 二十日

百里以上 二十日

東京ヨリ 二百里未満 三十日

二百里以外 四十日

第六條 預ケ金ヲ以テ公債證書ニ交換ヲ請ハントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ其預ケ金ヲナ

預金取扱規程



シタル預金取扱所へ差出スヘシ  
第七條 大藏省預金局ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケ其請求ニ應ジタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ五日除ク以内ニ時價ヲ以テ公債證書ヲ購入シ其額面金高記號番號購入代價及購入月日ヲ預ケ人へ通知スヘシ

第八條 預金制限超過額ヲ以テ大藏省預金局長公債證書ヲ購入スル場合ニ於テハ時價ヲ以テ之ヲ購入シ其額面金高記號番號購入代價及購入月日ヲ預ケ人へ通知スヘシ

第九條 預ケ人大藏省預金局ニ於テ直ニ取扱ヒタル預金ヲ以テ第七條又ハ第八條ニ依リ公債證書ヲ購入シタル通知ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヲ差出シ購入代價ニ對スル預ケ金仕拂ノ記入證明ヲ受ケタル上第五號書式ノ領収證書ヲ差出シ該公債證書ヲ受取ルヘシ

第十條 預ケ人前條公債證書ノ保管ヲ請ハントスルトキハ第六號書式ノ請求書ヲ大藏省預金局へ差出スヘシ

第十一條 各地金庫ニ於テ取扱ヒタル預金ヲ以テ第七條又ハ第八條ニ依リ公債證書ヲ購入シタルトキハ大藏省預金局ニ於テ購入済ヲ預ケ人へ通知スルト同時ニ第七號書式ノ假保管證書ヲ調製シ其金庫へ送付スヘシ

第十二條 預ケ人前條購入済ノ通知ヲ受ケタルトキハ其金庫へ預金通帳ヲ差出シ購入代價ニ對スル預ケ金仕拂ノ記入證明ヲ受ケタル上假保管證書ヲ受取ルヘシ

第十三條 預ケ人第十一條ニ於ケル公債證書ノ交付ヲ請ハントスルトキハ第八號書式ノ請求書及假保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲナシ之ヲ直ニ大藏省預金局ニ差出スヘシ

第十四條 預ケ人第十二條ニ於ケル公債證書ノ保管ヲ請ハントスルトキハ第六號書式ノ請求書ニ假保管證書ヲ添へ直ニ大藏省預金局へ差出スヘシ

第十五條 大藏省預金局ニ於テ第十條又ハ第十四條ノ請求書ヲ受取リタルトキハ第九號書式ノ保管證書ヲ調製シ之ヲ預ケ人へ交付スヘシ

第十六條 預ケ金ノ拂戻ヲ要スルトキハ第十號書式ノ請求書ヲ其預ケ金ヲナシタル預金取扱所へ差出スヘシ

第十七條 預ケ人直ニ大藏省預金局へ前條請求書ヲ差出ス場合ニ於テハ預金通帳ニ金員ノ記載證明ヲ受ケ第十一號書式ノ領収證書ヲ差出シ現金ヲ受取ルヘシ

第十八條 各地金庫ニ於テ第十六條ノ請求書ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ大藏省預金局へ送付シ同局ニ於テ第十二號書式ノ拂戻證書ヲ調製シ之ヲ預ケ人ニ送付スヘシ

第十九條 預ケ人前條ノ拂戻證書ヲ受ケタルトキハ該證書ニ式ノ如ク記名調印ヲナシ預金通帳ヲ添へ其金庫へ差出シ通帳ニ金員ノ記載證明ヲ受ケ現金ヲ受取ルヘシ

第二十條 預ケ人大藏省預金局保管ニ係ル公債證書全部ノ受戻ヲ請ハントスルトキハ第十三號書式ノ請求書及保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲナシ之ヲ大藏省預金局へ差出スヘシ

第二十一條 預ケ人大藏省預金局保管ニ係ル公債證書ノ内當籤其他ノ都合ニ依リ其幾部分ノ受戻ヲ請ハントスルトキハ第十三號書式ノ請求書及第十四號書式ノ領収證書ニ保管證書ヲ添へ大藏省預金局へ差出スヘシ

大藏省預金局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲナシ該公債證書ト共ニ返付スヘシ

第二十二條 大藏省預金局ニ於テ第十三條第二十條及第二十一條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ五日除ク以内ニ交付スヘシ但書留郵便其他通運會社便等ヲ以テ遞送ヲ望ムモノアルトキハ預ケ人ノ危険ニテ之ヲ遞送スヘシ



第二十三條 前條ノ遞送費ハ遞送請求人ノ負擔トシ書留郵便ヲ以テ遞送スルモノハ相當ノ郵便切手ヲ以テ大藏省預金局へ送付シ其他ノ便ニヨルモノハ遞送賃金先拂ヲ以テ遞送スヘシ

第二十四條 預金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ期トシテ之ヲ計算シ其元金ニ組入ルヘシ

第二十五條 預ケ人ハ毎年六月預金通帳ヲ其預金取扱所へ差出シ前條利子ノ記入ヲ受クヘシ

第二十六條 元金ニ加ヘサル預ケ金ノ利子ハ預金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ受取ルコトヲ得ス

第二十七條 預金ハ預ケ入レタル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ附セス但各地ニ於ケル拂戻ハ拂戻書發附ノ月ヲ以テ拂戻ノ月トス

預金拾錢未滿ノ端金ニハ利子ヲ附セス

第二十八條 保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ預金局長之ヲ受取リ其所有主ノ預金ニ組入レ其旨通知スヘシ

第二十九條 預ケ人前條ノ通知ヲ受タルトキハ預金通帳ニ該通知書ヲ添ヘ其預金取扱所へ差出シ該金預ケ入ノ記入ヲ受クヘシ

第三十條 預ケ金全額ノ拂戻ヲ受タルトキハ預金通帳ヲ返付スヘシ

第三十一條 甲ノ預金取扱所ヨリ交附シタル通帳ヲ以テ乙ノ取扱所ニ於テ受渡ヲナサントスルトキハ第十五號書式ノ申込書及印鑑<sup>各地ハニ</sup>ニ預金通帳ヲ添ヘ乙取扱所へ差出シ番記號ノ書替ヲ受クヘシ

第三十二條 預ケ金受渡ニ關シ調印ヲ要スル總テノ書類ニハ社寺教會會社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲナシ其擔當者一名記名調印シ又共同ニ係ルモノハ其總代人二名記名調印スヘシ

第三十三條 前條受渡擔當者及總代人氏名變換又ハ轉任セシトキハ其旨預金取扱所へ届出ヘシ

第三十四條 預金受渡擔當者及總代人變更シタルトキハ前任者連署ノ届書ニ後任者ノ印鑑<sup>各地ハニ</sup>ヲ添ヘ預金取扱所へ差出スヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立ツヘシ

第三十五條 明治二十三年十二月三十一日ニ於ケル通常預ケ金ノ預ケ主ハ二十四年三月ニ於テ通帳ヲ其預リ所へ差出シ本年十二月迄ニ係ル利子ノ記入ヲ受クヘシ

第三十六條 明治二十三年十二月三十一日迄ニ預ケ入レタル定期預ケ金ハ其滿期ニ至リ受取ルヘシ其期限内之ヲ引出スコトヲ得ス

第三十七條 明治二十三年十二月三十一日ニ於ケル現在ノ加印者ハ二十四年一月以降總代人ト見做スヘシ

第三十八條 明治二十三年十二月三十一日迄ニ交付シアル通帳ハ餘白ノ盡ルヲ俟ツテ引換フヘシ書式之ヲ略ス

附則

第三十九條 預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件<sup>明治二十三年八月廿七日法律第七十五號</sup>

第一條 預金規則第一條第二第三ニ依リ預金局ニ預リタル金額三百圓以上ニ達スルトキハ預ケ人ノ請求ニ依リ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得

第二條 前條預金ノ額二千圓ヲ超過スルトキハ預金局長ハ其超過額ヲ以テ整理公債證書ヲ購入シ

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件

預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件



テ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得

第三條 前二條ニ依リ購入シタル整理公債證書ハ預金ノ全額ヲ仕拂又ハ拂戻シタル場合ヲ除クノ外所有者ノ望ニ依リ之ヲ預金局ニ保管スルコトヲ得

第四條 本法ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

○保管金規則 明治二十三年一月四日  
法律第一號

朕保管金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

保管金規則

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿三十年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ記算ス

第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條 保管金ノ受渡ニ風スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

○保管金取扱規程 明治二十三年三月十七日  
大藏省令第八號

本年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄托スル保管金取扱規程左ノ通相定ム

保管金取扱規程

保管金規則  
保管金取扱規程



第一條 明治二十三年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄托スル保管金ハ此規定ニ依テ取扱フモノトス但從來預金局ニ寄托シタルモノハ當分ノ内從前ノ取扱ニ依ル

第二條 保管金ノ受渡ハ東京市内ニ於テハ預金本局其他ハ各地本金庫又ハ支金庫ニ於テ取扱フモノトス

第三條 保管金ハ權利者ヨリ現金ヲ拂込ムモノト各廳ヨリ拂込ムモノトノ二種ニ分チ之ヲ取扱フモノトス

第四條 權利者ヨリ現金ヲ拂込ムトキハ總テ取扱官廳ヨリ寄托通知書ヲ得テ之ニ現金ヲ添ヘ預金本局又ハ各地ノ金庫ニ差出スヘシ但出納官吏身元保證金ヲ拂込ムトキハ寄托通知書ヲ要セス

第五條 取扱官廳ハ權利者チシテ現金ヲ拂込マシムルトキハ第一號書式ニ依リ寄托通知書ヲ製シテ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第六條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ第四條ノ拂込ヲ受ルトキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シテ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第七條 各廳ヨリ現金ヲ拂込ムトキハ主任官吏ニ於テ第三號書式ニ依リ保管金送付書ヲ製シ現金ト共ニ之ヲ預金本局又ハ各地ノ金庫ニ送付スヘシ

第八條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ前條ノ拂込ヲ受ルトキハ第四號書式ノ保管金領收證書ヲ製シテ之ヲ拂込官吏ニ交付シスヘシ

第九條 本規程第五條第七條ニ依リ寄托通知書又ハ保管金送付書ヲ發スルモノハ豫メ取扱官廳ヨリ廳印及取扱主任官吏印ノ印鑑ヲ預金本局又ハ各地金庫ヘ送付スヘシ

應印ノ改正又ハ主任官吏ノ變更改印ノトキハ廳印又ハ主任官吏印ノ印鑑ヲ預金本局並ニ取扱

金庫へ送付スヘシ

第十條 權利者ニ於テ其拂込タル保管金ノ拂戻ヲ請求セントスルトキハ取扱官廳ノ裏書ヲナシタル保管證書ヲ得テ之ヲ預金本局又ハ當初拂込ヲナシタル金庫ニ差出スヘシ

第十一條 取扱官廳ハ保管金ノ拂戻ヲ要スルトキハ保管證書ニ第五號書式ノ如ク裏書ヲナシ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

第十二條 取扱官廳ハ保管金ノ政府ノ所得ニ歸シタル場合ニ於テハ保管證書ノ裏面ニ其事由ヲ記載シ收入官吏ヲシテ一般歳入トシテ之ヲ金庫ニ拂込マシムヘシ

第十三條 保管金領收證書ヲ發シタル保管金ニシテ失權ノ期限ニ至ルトキハ預金局ニ於テ一般歳入トシテ納付ノ手續ヲナシ其旨ヲ保管金ヲ寄托シタル官廳ヘ通知スヘシ

第十四條 取扱官廳ハ保管金ノ幾分ヲ歳入トナシ其幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要スルトキハ保管證書ニ事由書ヲ付シ保管證書ノ分割ヲ當初拂込ヲナシタル預金本局又ハ各地ノ金庫ニ請求スヘシ

第十五條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ新ニ二葉ノ保管證書ヲ製シテ舊保管證書ト交換スヘシ

第十六條 預金本局又ハ各地金庫ニ於テ權利者ヨリ保管金拂戻ノ請求ヲ受ルトキハ保管證書ト引換ニ其金員ヲ權利者ニ交付スヘシ

第十七條 各廳ヨリ敷人ノ權利者ニ屬スル保管金ヲ取纏メテ拂込ムトキハ保管金送付書ニ各權利者ノ金額氏名及期滿失効ノ年月日ヲ記シタル別紙ヲ添付スヘシ但權利者ノ不明ナルモノハ其旨ヲ保管金送付書ニ記入スヘシ

第十八條 權利者ニ於テ各官廳ヨリ拂込タル保管金ノ拂戻ヲ受ントスルトキハ其事由ヲ具シテ



其取扱官廳ニ申出ヘシ取扱官廳ハ之ヲ調査シテ拂戻スヘキ理由アリトスルトキハ第六號書式ノ拂戻金證明書ヲ權利者ニ交付スヘシ

權利者ハ拂戻金證明書裏面ニ式ノ如ク記名捺印シ之ヲ預金本局又ハ當初其官廳ヨリ拂込タル金庫ニ差出シテ其拂戻ヲ受クヘシ

第十九條 預金本局又ハ各地金庫ハ權利者ヨリ前條ノ請求ヲ受ルトキハ取扱官廳及主任官吏ノ印影ニ照合シ相違ナキモノハ領收證書ト引換ニ其金員ヲ權利者ニ交付スヘシ

第二十條 保管金ノ利子ハ毎年六月十二月ノ二期ニ分ナ之ヲ計算スヘシ

第二十一條 保管金ノ利子ハ毎年七月一月預金局ニ於テ各權利者毎ニ第七號書式ノ保管金利子證券ヲ製シ取扱官廳ヘ送付スヘシ

取扱官廳ニ於テ前項ノ證券ヲ受取タルトキハ取扱主任官吏ニ於テ式ノ如ク檢印シ之ヲ權利者ニ交付スヘシ

權利者ニ於テ保管金利子證券ヲ受取タルトキハ之ヲ以テ利子仕拂ヲ保管金利子證券ニ記載アル預金本局又ハ本支金庫ニ請求スヘシ(廿三年六月大藏省令第十五號ヲ以テ改正)

第二十二條 預金本局又ハ本支金庫ハ前條ノ保管金利子證券ト引換ニ現金ヲ仕拂フヘシ(廿三年六月大藏省令第十五號ヲ以テ改正)

第二十三條 保管證書ヲ亡失シタルトキ第十一條ノ裏書ヲナサ、ルモノハ再渡シ其裏書ヲナシタルモノハ再渡セス取扱官廳ヨリ裏書同様ノ證明ヲ得尙保證人ヲ立テシメ保管金ヲ拂戻スヘシ

保管證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ見認メ難キニ至リタルモノハ前項ニ準シテ證書ノ交換又ハ保管金ノ拂戻ヲナスヘシ

(書式略ス)

○政府ニテ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スル件 明治二十三年一月四日

勅令第一號

朕政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

預金規則ニ定メタルモノ、外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有

金私有金ハ總テ大藏省預金局ニ寄托スヘシ

法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依ルノ外政府ハ公有金私有金ヲ保管セス



○供託規則 明治二十三年七月二十五日  
勅令第四百十五號

朕供託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

供託規則

- 第一條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大藏省預金局ニ於テ之ヲ保管スヘシ
- 第二條 供託シタル金錢ハ拂込ノ日ヨリ六十日ヲ過ルトキハ拂込ノ翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ通常預金ノ利子ヲ付スヘシ
- 第三條 供託ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣定ムル所ノ式ニ依リ供託書ヲ製シテ供託物ニ添ヘ其申込ヲ爲スヘシ
- 第四條 供託者ハ民法財産編第四百七十七條債權擔保編第二百六十八條及商法第七百四十條ノ場合ニ於テハ其供託シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ
- 第五條 供託物ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ又ハ裁判所ノ通知ニ依リ拂渡スヘキモノトス但供託者ニ於テモ其受領スヘキ理由アルコトヲ證明シ返戻ヲ請求スルコトヲ得
- 第六條 有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ヲ受取ントスルトキハ有權者ヨリ大藏省預金局ニ請求スヘシ此請求ナキトキハ政府ハ損害ノ責ニ任セサルヘシ
- 第七條 前條ノ請求ニ依リ大藏省預金局ニ於テ受取リタル償還金利子又ハ配當金ハ代供託物又ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管スヘシ

○中央備荒儲蓄金會計規則 明治二十三年五月十二日  
勅令第七十七號

朕中央備荒儲蓄金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央備荒儲蓄金會計規則

- 第一條 左ノ諸收入ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳入トス
  - 第一 預金利子
  - 第二 米穀賣拂代
  - 第三 雜收入
- 第二條 左ノ諸支出ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳出トス
  - 第一 府縣備荒儲蓄金補助
  - 第二 米穀購入代
  - 第三 米穀運送費
  - 第四 糶摺及搗精費
  - 第五 米穀保存及取扱費
  - 第六 藏敷料及諸手數料
- 第三條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ
- 第四條 大藏大臣ハ其年三月三十一日現在ノ中央備荒儲蓄金高明細表ヲ調製シ毎年度ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

供託規則

中央備荒儲蓄金會計規則



第五條 收入官吏ハ歳入ヲ收納スルトキハ中央備荒儲蓄金ノ寄托トシテ直ニ之ヲ預金局ニ拂込ヘシ

第六條 大藏大臣ハ府縣ノ備荒儲蓄金補助トシテ中央備荒儲蓄金ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄托金ヲ支出セシメ之ヲ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第七條 大藏大臣ハ米穀ノ賣買保存ニ關スル費用ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄托金ヲ支出シ之ヲ主任官吏ニ交付セシメ主任官吏ヲシテ執行セシムヘシ

第八條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未済トシテ順次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第九條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ支出ノ請求ナキモノハ支出未済トシテ其定額ヲ順次翌年度ニ繰越シ支出ノ請求アル毎ニ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ

第十條 米穀ヲ購入スルニ當リ臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

第十一條 入札ノ方法ヲ以テ米穀ヲ賣却スルトキハ其入札期日ヨリ少クモ三日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第十二條 收入官吏仕拂官吏及物品會計官吏ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送附スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第十三條 本規則ニ掲ケサル中央備荒儲蓄金會計ノ規程ハ總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

○中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計ノ件 明治二十三年三月十七日

計ノ件 法律第廿一號

朕中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 中央備荒儲蓄金、預金局預金、郵便貯金預所貯金、郵便爲替金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 中央備荒儲蓄金ハ預金局ニ寄托シ其利子ハ之ヲ元金ニ編入スヘシ

第三條 備荒儲蓄法ニ依リ中央備荒儲蓄金ヲ使用セントスルトキハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第四條 預金局預金ハ日本銀行ヲシテ之レカ運用利殖ヲ取扱ハシメ其利殖金ヲ以テ利子ノ仕拂ニ充テ殘餘アルハ利子仕拂元金トシテ之ヲ積立預金ト共ニ運用利殖スヘシ

第五條 預金局預金ニ對シテ政府ヨリ仕拂フヘキ利子ハ其金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第六條 郵便貯金ハ預金局ニ寄托シ其利子ヲ貯金利子ノ仕拂ニ充ツヘシ

第七條 郵便爲替ヲ取扱フ爲メ特ニ爲替資本ヲ置キ從來ノ資本額ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第八條 郵便條例第百四十七條第三項ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル郵便爲替金ハ一般ノ歳入ニ組入ルヘシ

第九條 預金局預金郵便貯金預所貯金、郵便爲替金ノ收入支出ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但勅令ヲ以テ之ヲ定ムルマテハ從前施行スル所ノ規程ニ依ルヘシ



第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

○會計検査院法 明治二十二年五月九日  
法律第十五號  
朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計検査院法

第一章 組織

- 第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス
- 第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二十四員及屬若干員ヲ置ク
- 第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ判任トス
- 第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス
- 第五條 院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得
- 第六條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス
- 第七條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
- 第八條 會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラル、コトナシ
- 會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス
- 第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼ネ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

二十三年十月十日  
勅令第二百二十四號  
以テ検査官補六名  
ヲ置キ検査官補ニ  
檢員アルハ定員  
外試補ヲ置クコト  
ヲ得其數ハ検査官  
補缺員ノ數ヲ超過  
スルコトヲ得サル旨  
公布アリ



第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

- 一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ
  - 二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ
  - 三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ
  - 四 検査事務ノ規程計算證明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ
  - 五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認めタルトキ
- 第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ總會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

- 一 總決算
  - 二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算
  - 三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算
  - 四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算
- 第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ  
二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ  
第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認めタルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條 第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得  
第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム  
第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認めタルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得



第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官

ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サ

シメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減

免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬

長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト雖其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納

官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載ナルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲

スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

租稅

○地租條例 明治十七年三月十五日太政官布告第七號 明治二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ改正

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二十七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其

他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス 但東京府管轄伊豆七嶋小等原嶋「函館縣」沖繩縣「札幌縣」「根室縣」ハ當分從前ノ通タルヘシ

(別冊)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鐵泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成、等ノ如キ天災ニ罹リ地形

ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地、禁伐林、及公衆ノ用

ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス



第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審查シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十

六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依

リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ

受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル

道路ト爲ストキハ其地租ハ工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限

ニ在ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出鉞下年期ノ許可ヲ受クヘシ

鉞下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ鉞下

年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノ

ハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 (削除)

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以

内ノ繼年期ヲ許可ス

第十九條 鉞下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 荒地ハ其ノ被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

海嘯ノ爲メ潮水侵入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價

年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス

他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム



第廿三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第廿一條第廿二條ニ依リ處分ス

第廿四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ廿年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス

第廿五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ逋脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第廿六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第廿七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第廿八條 第廿五條以下ノ所犯借地人、小作人、ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

第廿九條 第廿五條第廿六條第廿七條第廿八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

○地租條例施行細則

明治二十二年十二月廿九日  
大藏省令第十九號

地租條例施行細則左ノ通定ム

地租條例施行細則

第一條 條例第三條中第二類牧場ハ牧畜用ノ土地ニシテ一區域ヲ爲ス土地トス

第二條 條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ

公立學校地ハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於テ實驗用ニ供スル五町歩以内ノ土地ニシテ借地ニ非サルモノニ限ル

鄉村社地ハ鄉村社ノ現境内ニシテ該社有ノモノニ限ル

禁伐林ハ明治十七年太政官布達第三號ニ據リ樹木斫伐停止ノ土地

鐵道用地ハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例第八條ノ土地

第三條 條例第五條ノ丈量ヲ爲スニ方リ尺度ノ用法ハ左ノ如シ

一間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分一ヲ分ト爲シ分ノ十分一ヲ厘ト爲シ丈量ノ際端尺三寸ヨリ五尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止メ其積算上ニ於テ一步未滿ヲ切捨テ可シ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿ナルモノハ勾位迄ヲ用ユ

市街宅地ノ丈量ハ厘未滿ヲ切捨テ厘位ニ止メ其積算上ニ於テ一勾未滿ヲ切捨テ勾位ニ止ム

第四條 條例第六條ノ丈量ハ所有主之ヲ爲シ地方廳其當否ヲ検査ス但本條ノ場合ニ於テ一筆ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルトキハ其殘地若シハ全部ヲ丈量シ其二類地ニ係

ルモノハ適宜之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 地盤ヲ丈量スルニハ三斜法ヲ用ユ但山林原野等ハ其地形ニ因リ適宜ノ方法ヲ以テ丈量

スルコトヲ得

第六條 田畑ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ丈量ス



第七條 田畑ノ畦畔ニシテ其所有主自由ニ變更ス可キモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變更セサルモノハ之ヲ除却シ其步數ヲ外書トス  
 畑宅地ノ一筆地ノミニ通スル道路及一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小逕ノ類ハ總テ本地ニ量入ス  
 崖高ノ地其崖脚中ノ畝入ニ必要ナル土地ハ之ヲ本地ニ量入シ其崖脚ニシテ相當ノ收利アルモノハ之ヲ本地ニ量入シ若クハ別ニ一筆地トス  
 田畑宅地内ニ別地目ノ瑣少ナルモノ孕在スルトキハ之ヲ本地ニ量入シ内書トス  
 第八條 地價ヲ定メ又ハ修正ス可キ土地ハ所有主ニ於テ近傍類地ト其地力ヲ比較シ又實地ノ情況ニ依リ相當ノ地位等級ヲ調ヘ其願届書ニ記入スルモノトス  
 前項ノ場合ニ於テ所有主多數ナルトキハ其所有主中ヨリ二名以上ノ總代人ヲ撰ミ調理セシムルコトヲ得  
 前項ノ地價ハ地方廳ニ於テ検査ノ上之ヲ定ム  
 第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ府縣知事ニ於テ豫メ管内ヲ五區域ト爲シ毎年其一區域ヲ查シ五箇年ヲ以テ全管ヲ檢了ス可シ但地價ハ検査ノ當年ニ於テ修正ス  
 第十條 條例第十三條第一項末段ノ土地ハ工事ニ著手セシ一筆地限リ其月ヨリ免租ス  
 第十一條 條例第十六條第二項ノ土地ハ同條第一項届書ニ開墾著手ノ年月ヲ記載ス可シ  
 第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六項及第二十條年期ノ長短ハ其事業ノ難易被害ノ深淺ニ因リ府縣知事ニ定ム  
 第十三條 條例第十八條第二十一條第二十三條第二十四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニ因リ府縣知事ニ定ム

第十四條 條例第二十五條第二十六條第二十七條ノ追徴租額ハ犯罪發覺ノ日即チ其月分ヨリ計算ス  
 第十五條 條例中地方廳へ差出ス可キ願届書式ハ府縣知事ニ定ム

○地租條例及地租條例施行細則取扱方 明治二十二年十二月二十九日 大藏省訓令第七十六號

地租條例及地租條例施行細則取扱方ノ通心得可シ  
 第一條 條例第三條ノ牧場ニシテ從來數地目ニ分割取調ヘタルモノハ訂正ノ手續ヲ爲サシム可シ但摺乳營業ノ爲メ獸類ヲ豢養スル場所ハ此限ニ在ラス  
 第二條 條例第十三條ノ禁伐林ニシテ既ニ其命令アルモノハ條例施行ノ月ヨリ其地租ヲ免除ス可シ  
 第三條 施行細則第四條ノ検査ヲ爲スニ方リ官ノ地圖ト實地トヲ照査シ其齟齬ナキヲ視認メタル上著手ス可シ但丈量検査ニ要スル器械ハ收稅官吏携帯ス可シ  
 第四條 條例第十條第二項ノ土地ハ其届書ヲ検査區域毎ニ編綴シ置キ其地價修正シタル市町村限リ變換ノ年度ヲ區分シ六箇年目ヨリ遞次賦租ス可キ地目變換地臺帳ヲ調製シ置ク可シ  
 第五條 條例第十條第三項ノ變換及條例第十六條第二項ノ開墾届出アルトキハ市町村限各其臺帳ヲ調製シ地價修正ノ年限ヲ記入シ置ク可シ  
 第六條 條例第十六條第三項十五年以上ノ年期及第六項第十八條第二十條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ附與ス可キモノト視認ムルトキハ其狀況ヲ具シ當省へ稟議ス可シ



第七條 地盤ヲ丈量シタルモノハ其願屆書ニ丈量野取圖ヲ添附セシム可シ  
 第八條 條例第二十四條ノ荒地ニシテ川海湖ニ歸シタル土地アルトキハ地種組換ノ手續ヲ爲ス可シ  
 第九條 各地目中ニ包含セル現地名稱ハ土地臺帳地目欄内本地目ノ傍ニ記入ス可シ

○地租徵收期限 明治十四年二月十七日太政官布告 第拾四號

明治十年<sup>七</sup>第五拾三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定候條此旨布告候事  
 但市街宅地地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛ヲ收納スヘシ(十五年<sup>第廿四號</sup>布告ヲ以テ但書改正)  
 地租徵收期限

- |     |                       |   |      |
|-----|-----------------------|---|------|
| 一期同 | 該年七月一日ヨリ<br>八月三十一日限   | 畑方及宅地山林原野牧場                                       | 五分   |
| 二期同 | 九月一日ヨリ<br>十月三十一日限     | 同   | 五分   |
| 三期同 | 十一月一日ヨリ<br>十二月十五日限    | 田方 <small>(十八年<sup>第十五號</sup>布告ヲ以テ田方納期改正)</small> | 二分五厘 |
| 四期同 | 十二月十六日ヨリ<br>翌年一月二十五日限 | 同   | 二分五厘 |
| 五期同 | 一月二十六日ヨリ<br>三月三十一日限   | 同   | 二分五厘 |

六期同 四月二十日限

同

二分五厘

○田畑地價特別修正 明治二十二年八月二十六日 法律第二十二號  
 朕地租改正以來ノ實歴ニ徴シ此法律ニ指定スル府縣ノ田畑ニ限リ地價低減ノ必要ヲ認メ地價ノ特別修正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 田畑地價ノ特別修正ヲ爲スヘキ府縣國郡及其修正地價總額左ノ如シ  
(府縣國郡地價略ス)  
 第二條 修正地價總額ニ依リ低減スヘキ市町村田畑ノ地價額ハ大藏大臣之ヲ定メ府縣知事ヲシテ達セシム  
 第三條 此法律ニ依リ地價ヲ低減シタル田畑ノ地租ハ明治二十三年分ヨリ其修正地價ニ依リ之ヲ徵收ス

地租徵收期限  
 田畑地價特別修正



○所得稅法 明治二十年三月十九日  
勅令第五號  
朕所得稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

所得稅法

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムヘシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債證書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニアラサル貸金預金ノ利子、株式ノ利益配當金、官私ヨリ受クル俸給、手當金、年金、恩給金及割賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若クハ收入物品代價中ヨリ國稅、地方稅、區町村費、備蓄儲蓄金、製造品ノ原質物代價、販賣品ノ原價、種代、肥料、營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料、修繕料、雇人給料、負債ノ利子及ヒ雜費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三箇年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ但所得收入以來未タ三年ニ滿クサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準ヲ取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲クルモノハ所得稅ヲ課セス

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給



第二 官私ヨリ受クル旅費、傷痕疾病者ノ恩給金及孤兒寡婦ノ扶助料  
 第三 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得  
 第四條 所得税ノ等級及税率左ノ如シ

等級	所得金	税率
第一等	所得金高三萬圓以上	百分ノ三
第二等	所得金高貳萬圓以上	百分ノ二半
第三等	所得金高壹萬圓以上	百分ノ二
第四等	所得金高千圓以上	百分ノ一半
第五等	所得金高三百圓以上	百分ノ一

但所得金高ハ圓位未満ノ端數ヲ算セス

第五條 所得税ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ  
 第六條 此税法ニ依リ税金ヲ納ムヘキ所得アル者ハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ毎年四月三十日マテニ居住地ノ戸長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ  
 第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得税調査委員ヲ置キ毎年調査委員會ヲ開キ所得税ニ關スル調査ヲ爲サシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補缺員ヲ置キ缺員ノ補充ニ備フヘシ

第八條 調査委員及補缺員ニ選ハレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第九條 調査委員ノ選舉人被選人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得税ヲ納ムル

者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選人タルコトヲ得ス  
 同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互選セシム但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

町村選舉人ハ第九條ノ範圍内ニ於テ調査委員及補缺員ヲ選舉スヘシ

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス

但第一回ノ改選ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當、旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ届書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其届書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲ爲サ、ル者アルト

キハ所得金高ノ見積ヲ立テ之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ

郡區長缺席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半数出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ

過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル但自己ノ所得ニ關スルトキ

ハ其會議ニ與ルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得税等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達ス

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ



第十九條 納税者ニ於テ所得税ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ルコトヲ得但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據テ之ヲ處分スヘシ但其處分納税後ニ涉ルトキハ税額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此税法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納税者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得税ノ調査ニ關スル者ハ納税者ノ資産及所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納税者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其税額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免税スヘシ但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ通税シタル者ハ其通税金高三倍ノ罰金ニ處ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徴シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出ヲ爲サル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此税法ヲ犯シタル者コハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此税法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此税法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道、沖繩縣及東京府管轄小笠原島、伊豆七嶋ニ於テハ官府ヨリ受ケル俸給、手當金、年金及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

附則

本法第六條ノ届書ハ本年ニ限リ七月三十一日マテニ差出スヘシ

○所得税法施行細則 明治二十年五月五日 大藏省令第八號

所得税法施行細則左之通相定ム

所得税法施行細則

第一條 戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ属スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納税スヘキモノトス

第二條 税法第二條第三項ニ依リ所得ヲ算出スルハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前二箇年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス

第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ

第四條 税法第六條ノ届書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

第五條 左ニ掲クル者ハ一定ノ地ニ其納税管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此税法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

一 此税法ヲ施行セサル地ニ居住シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

所得税法施行細則

八二



一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此税法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スル者ハ其居住地ノ郡區長ニ届出ヲ爲スト同時ニ第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ

第七條 郡區長第六條ノ届出ヲ受クルトキハ之ヲ其納稅地ノ郡區長ニ送付スヘシ但其届出高ニ對シ意見アルトキハ別ニ其意見ヲ附スヘシ

第八條 納稅者他ノ郡區役所轄内ニ轉居セントスルトキ及ヒ轉居シタルハ各其地ノ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受タルトキハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條 郡區長ハ其轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノ、所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一箇人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員選舉ノ爲メ税法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ

第十二條 調査委員會及ヒ調査委員選舉ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル事故アルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ第三號書式ニ依リ毎年八月十日マテニ之ヲ達スヘシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戶長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調

查ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 税法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定スヘシ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半數出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則(二十年大藏省令第十)  
三號ヲ以テ本則改正  
本年ニ限リ第十一條ノ公告ハ十月末日迄ニ第十五條ノ達ハ十二月末日迄ニ之ヲ爲スヘシ  
(書式略ス)

○所得稅納稅者届出書面ノ誤謬訂正申出ノ時取扱方 明治二十一年七月九日大藏省訓令第二十五號

所得稅納稅者届出タル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツルトキハ郡區長之ヲ審査シ其事實明確ト認ムル者ニ限リ左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

第一項 調査委員會開會以前ニ申出ツル者ハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正セシムヘシ

第二項 届出ノ重複ニ涉レル者ハ調査委員會決議後ト雖モ郡區長ニ於テ之ヲ訂正スルコトヲ

所得稅納稅者届出書面ノ誤謬訂正申出ノ時取扱方



得  
第三項 第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會議決後ニ係ル者ハ所得税法第十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ

○市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件 明治二十二年四月廿二日 法律第十四號  
朕市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市制町村制施行ノ地ニ在テハ所得税法第六條ノ屆書ハ町村ニ於テハ町村長ヲ經テ郡長ニ市ニ於テハ市長ヲ經テ府縣知事ニ之ヲ差出シ第七條第八條ノ調査委員ハ郡役所管轄内及市ニ東京市京都市大阪市ハ區ニ置キ其區域内ニ於テ之ヲ選舉シ第九條ノ調査委員ノ選舉人被選舉人ノ現任ハ調査委員會議置區域内トシ第十條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ市ニ東京市京都市大阪市ハ區ニ郡長ハ町村ニ若干名ノ選舉人ヲ定メ第十七條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行ヒ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ第二十條ニ依リ處分スヘシ又第十三條第十四條第十五條第二十三條ノ區長ノ職務ハ府縣知事之ヲ行フヘシ但第十五條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ部下ノ官吏ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

○酒造稅則 明治十三年九月廿七日 太政官布告第四十號  
今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告

候事  
(別冊)  
酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率  
第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ納稅保證ノ爲管廳ニ於テ相當ト認ムル所ノ保證物ヲ差出スカ若ハ資産ヲ有スル保證人ヲ立ツルニアラサレハ前項ノ免許ヲ與ヘサルヘシ(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本項以下追加)

一 第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者  
二 酒類造石稅ノ滯納處分ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者  
三 所有不動産ノ價額造石稅四分ノ一ニ滿タサル者

保證物ノ種類及保證人ニ要スル條件ハ大藏大臣之ヲ定ム  
第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒酒類其他釀造酒類  
二類 蒸溜酒 燒酎酒精再釀酒類其他(十五年第十七號布告ヲ以テ酒類ニテ酒類云々ノ六字ヲ加フ)  
三類 再製酒 燒酎味淋白酒等釀造酒類ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタル者ヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ(十五年第六十一號布告ヲ以テ稅額ノ項共改正)  
市制町村制施行地ノ所得稅ニ關スル件  
酒造稅則



酒造免許税

酒造場一箇所ニ付 金三拾圓

酒類造石税

- 一類壹石ニ付 金四圓
- 二類壹石ニ付 金五圓
- 三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス  
酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項造石高各項共追加)

- 清酒 百石
- 濁酒 拾石
- 一類 清酒酒類 二類 三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第六條 免許鑑札買賣讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換テ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代換改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ四期ニ納ムヘシ(二十三年法律第四十條九號ヲ以テ本條改正)

第一期 四月十五日限 十月一日ヨリ一月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 八月十五日限 二月一日ヨリ五月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 十一月十五日限 六月一日ヨリ九月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ全數並ニ第一期第二期ニ係ル殘納額ノ半數

第四期 一月十五日限 前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 營業免許後不動產ヲ賣渡讓渡及抵當トシ其現在スル價額造石税四分ノ一ニ滿タサル場合ニ於テハ第一條第二項ニ依リ更ニ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立テシムヘシ

前項ノ保證物ヲ差出スカ若ハ保證人ヲ立ナルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラズ検査済酒類ニ係ル造石税ヲ納メシムヘシ(二十三年法律第四十條九號ヲ以テ本條改正)

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税



ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類(検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ルヘシ)

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ酒類ニ變製第一章第キ條中一類ノ酒ヲニ類ノ酒ニ變製スル額スル時ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 検査済酒類納税以前ニ於テ腐敗シ若ハ天災其他避クヘカラサ事故ニ依リ廢棄ニ属シタルトキハ直ニ管廳ニ申出検査ヲ受ケ其造石税免除ヲ請フコトヲ得(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本條改正)

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ(二十三年法律第四十九號ヲ以テ以下)

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込ヲル酒もト其仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳ヘ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ヘ届出ツ可シ(十六年第六號布告)造酒着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外ヘ移スコトヲ許サス(十六年第六號布告)

(二十三年法律第四十九號ヲ以テ本項削除)

第三章 禁令 雜令

第廿一條 酢及酒もト販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒もトノ不用ニ属シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニ在ラス(十五年第廿一條但書追加)

第廿二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

第廿三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

検査済酒類ノ酒類ヘ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス(十五年第六十一號布告ヲ以テ本項追加)

第廿四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第廿五條 造酒器機ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フヘシ

第廿六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届出ヘシ但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第廿七條 酒造ニ属スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第廿八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

酒造規則



第廿九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許稅額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ本條改正但書追加)

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ改正)

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加十六年第二十六號布告ヲ以テ第十四條ノ下又ハ云云ノ六字ヲ刪ス)

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス(十六年第六十六號布告ヲ以テ本項改正)

第三十六條 第十條第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

但書

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪但發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス(十五年第六十一號布告ヲ以テ追加)

○酒造稅則附則(十九年勅令第六十號ヲ以テ改正)

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ糖油等ニ混和シテ飲スルモノ)製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ届出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一 酒類受小賣營正者

一 飲食店又ハ旅館屋營業者

一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石(二種以上製造スル者ヲ超ユルヲ得ス)

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス



第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌ヲ得ス  
 第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス  
 第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ  
 第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒収ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス  
 第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未タ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡タル者ニ同シ  
 第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○醬麴營業稅則 明治十三年九月廿七日太政官布告  
 第四十一號

醬麴營業稅則別冊之通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醬麴(醸造酒類)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ  
 金五拾圓

第二章 營業免許

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

十六年第四十三號  
 布告關稅營業稅則  
 二關稅犯限アルト  
 キ租稅官吏處分方  
 參看  
 十四年第七十二號  
 布告關稅處斷方參  
 看

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ  
 第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ  
 第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ検査ヲ受ケヘシ  
 第六條 管廳及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ(十五年第六十二號布告ヲ以テ本項追加)  
 第七條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ後方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ  
 第八條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ  
 第二章 禁令 罰令  
 第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス  
 第十條 免許鑑札ヲ受ケス醬麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅ニ倍ノ金額ヲ徴スヘシ  
 第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徴スヘシ  
 第十二條 醬麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醬麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類(醬麴)ヲ製造スルヲ許サス(十五年第六拾貳號布告ヲ以テ追加)  
 第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ和罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ(十五年第六拾貳號布告ヲ以テ追加)  
 第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス(十五年第六拾貳號布告ヲ以テ追加)  
 第十五條 醬麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰



○醬油稅則 明治二十一年六月十六日  
勅令第四十七號  
朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醬油稅則

第一條 醬油溜ヲ併稱ス製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ  
ヘシ但製造人十六歳未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ  
營業稅 製造場一箇所ニ付一箇年 金五圓

造石稅 醬油ハ諸味一石ニ付 金一圓

溜ハ製成一石ニ付 金一圓

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同七月三十一日  
限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受  
クヘシ  
造石數査定濟ノ醬油ト査定未濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘ  
シ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其  
造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限り管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓  
受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

第七條 免許鑑札ハ貸借買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス  
移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第八條 醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス  
第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ  
造石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但  
書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ廢棄  
ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ



第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ノ検査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他

證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ造石税ノ下

戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル

醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依托ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此

税則ニ從フヘシ

第十五條 醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十七條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十八條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳

簿ハ當該官吏之ヲ検査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條 當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證

憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第二十條 免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處

シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十一條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰金ニ處シ仍

ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第二十二條 第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十三條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及通

税ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル

者仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十四條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ検査ヲ受サル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 此税則ヲ犯シ没收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金

ヲ追徴ス

第二十六條 此税則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

第二十八條 醬油製造人十六歳未滿ノ幼年者及癡癩白痴又ハ瘡啞ニシテ此税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ

處罰ス

附則

第二十八條

北海道沖繩縣及東京府管下小笠原嶋伊豆七嶋ニハ當分此税則ヲ施行セス但此税則施

行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此税則ニ從フヘシ

第二十九條 比税則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見

人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

醬油税則

九七



○菓子税則 明治十八年五月八日太政官布告 第十一號

菓子税則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七嶋小笠原嶋「函館縣」沖繩縣「札幌縣根室縣」ハ當分之ヲ施行セス

(別紙)

菓子税則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人

菓子卸賣人

菓子小賣人

第二條 菓子營業者ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セントキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ)

雇人一人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ本項追加)

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人アル者 一箇年 金五圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ)

雇人一人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ本項追加)

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓



雇人二人アル者 一箇年 金三圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ)  
 雇人一人アル者 一箇年 金貳圓(二十一年勅令第八號ヲ以テ本項追加)  
 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス  
 露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ  
 第一期 一月一日ヨリ六月三十日 其年八月三十一日限  
日賣上金高ニ係ル分  
 第二期 七月一日ヨリ十二月三十日 翌年二月二十八日限  
日賣上金高ニ係ル分

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス  
 其年七月十五日限  
 其年七月一日ヨリ六月三十日迄ノ分  
 其年七月十五日限  
 其年七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分  
 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造稅額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム(二十一年勅令第八號ヲ以テ改正)

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十六條 (二十一年勅令第八號ヲ以テ本條削除)  
 第十七條 第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第十八條 第十二條第十三條ノ届書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス(二十一年勅令第八號ヲ以テ本條中加除修正)

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス(二十一年勅令第八號ヲ以テ)  
及ヒ云々ハ字ヲ削除ス

第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス



○煙草稅則 明治二十一年四月六日  
勅令第二十號  
朕煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人

葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者

未丁年瘋癲白痴又ハ瘡啞ナル者ハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル

爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス

證約金 營業場一箇所毎ニ五百圓以上  
煙草製造人此稅則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若

クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトハキ管廳ニ申出

鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付金二十錢

煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金十錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業所一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ每年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之

ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ

其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙

稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スル

トキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ



第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貨渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ通脱ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

煙草稅則

104







四 錢 橙 黃 色  
 五 錢 紫 色  
 拾 錢 深 紅 色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ  
 但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ  
 第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス  
 第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス  
 (印紙貼用雛形略之)

○船稅規則 明治十六年四月十七日太政官布告

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス  
 但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

(別冊)

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス  
 第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ  
 第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ  
 第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ  
 第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ隻方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ  
 第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ  
 西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓  
 同 風帆船 同 金拾圓  
 日本形船積石五拾石以上 百石ニ付同 金貳圓

船稅規則

108

十八年第十六號布告ヲ以テ日本形五  
 百石以上ノ船舶製  
 造ヲ禁止ス



同 積石五拾石未滿 自舳梁 三間迄ハ一年金三拾錢  
舳梁 三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ増加ス

遊船 長至舳梁三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ増加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船并解漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船破ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ届出鑑札

ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時

ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「ハツテラ」船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其前半年分

ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新製造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅

金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ届出納

稅ヲ辨セシムヘシ

第十五條 本籍管内ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシム

ヘシ

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人

ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船

ニ烙印ヲ受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發

ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス



○車税規則 明治八年二月廿日太政官布告

第二十七號

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限り相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年二月第三十一號布告解漁船并ニ海川小廻船等船稅規則ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則

第一則

馬車二疋立以上

同 一疋立

荷積馬車

人力車或人乘

同 一人乘

牛車

荷積大七八車

荷積中小車但大六以下

第二則 新調ノ車ハ總テ其都度區戸長ヘ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戸長ヘ取集メ其管轄廳ヘ可相納事

一箇年税金三圓

一箇年税金貳圓

一箇年税金壹圓

一箇年税金貳圓

一箇年税金壹圓

一箇年税金壹圓

一箇年税金壹圓

一箇年税金五拾錢

但前半年分ハ一月三十一日限り後半年分ハ七月三十一日限り其管轄廳ヘ可相納事(十一年第四號布告ヲ以テ納)

稅期改正

第五則 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事

附則(二十一年勅令第七號ヲ以テ本則追加)

北海道縣管内ニ限り第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七八車荷積中小車ハ當分ノ内税金ヲ免除ス

十四年第七十二號  
布告前例處斷方參  
看



○牛馬賣買規則 明治五年十一月四日太政官布告

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管內共區々ノ取計無之様可致候事

(別紙)

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御銓議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ從ヒ處罰可致事

牛馬賣買規則

- 第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬一鼻綱ニ付免許鑑札一枚相渡可申事  
但一鼻綱ハ牛馬共七疋ニ限リ鑑札一枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七疋以內二枚ヲ所持スル者ハ十四疋ニ限ルヘシ其餘准之可申事
- 第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事(七年第四十五號布告ヲ以テ改正)
- 第三條 免許鑑札萬一燒失夫盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事
- 第四條 免許鑑札一枚ニ付一ヶ年稅金一圓上納可致事  
但右稅金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限各管廳ヘ取立租稅「寮」ニ上納可致尤新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事(八年第四百十五號布告ヲ以テ但書改正)
- 第五條 免許鑑札燒却并押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共ヘ相渡可申事

十四年第七十二號  
布告別例處斷方參  
看

但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省ヘ可差出事

第六條 右條取締相立候上ハ向後無鑑札コテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相願ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事  
但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ヘ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代并科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付候諸入費ハ一ヶ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事(七年第三百三十一號布告ヲ以テ但書共追加)  
但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡シ候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管轄廳ヘ届出新規鑑札可申受事(八年第四百十六號布告ヲ以テ但書共追加)  
但手數料トシテ鑑札一枚ニ付金貳拾錢可相納事

(雛形略之)



○國稅徵收法 明治二十二年三月十三日  
法律第九號

朕國稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅徵收法

第一章 總則

- 第一條 國稅ハ關稅ヲ除ク外總テ此法律ニ據テ之ヲ徵收ス
- 第二條 市町村ハ其市町村内ノ地租ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ納付スルノ義務アルモノトス  
前項ノ事務ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス
- 第三條 其他ノ國稅ハ勅令ヲ以テ命スルトキハ前條ノ例ニ依ル  
前項ノ場合ニ於テハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其市町村ニ交付スヘシ
- 第四條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル税金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ
- 第五條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收シタル税金ヲ亡失シタルトキハ府縣知事ヲ經テ其責任免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得
- 第六條 納稅人納期限ヲ過キ國稅ヲ完納セザルトキハ別ニ定ムル所ノ法律ニ據リ之ヲ處分ス
- 第七條 國稅納期ノ末日日曜日又ハ大祭日祝日ニ當ルトキハ其翌日ヲ以テ納期ノ末日トス
- 第二章 徵收
- 第八條 地租及勅令ニ依リ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ徵收スルトキハ市町村ニ對シ其他ノ國稅ヲ徵收スルトキハ各納稅人ニ對シ府縣知事徵稅令書ヲ發スヘシ(廿二年法律第廿三號ヲ以テ改正)

- 第九條 市町村長ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ發布スヘシ
- 第十條 納期アルモノハ段別ノ規定アルモノヲ除クノ外該納期ノ十五日以前納期數日ニ涉ルモノハ初時收入ニ係ルモノハ其納期日ヲ定メ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發スヘシ
- 第十一條 第八條第一項ノ場合ニ於テハ各納稅人ハ税金ヲ市町村收入役ニ拂込ミ其領收證ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス但町村會ノ議決ヲ以テ町村長ニ收入役ノ事務ヲ委任スルコトヲ得
- 第八條第二項ノ場合ニ於テハ各納稅人ハ税金ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ得テ其納稅義務ヲ了ルモノトス
- 第十二條 市町村長ハ市町村收入役ニ於テ受領シタル税金ヲ受取之ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ得テ其義務ヲ了ルモノトス
- 第十三條 市町村長ハ納期限ヲ過キ税金ヲ完納セザル者アルトキハ其滯納ノ稅目金額及滯納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ
- 第十四條 納稅人他ノ負債ニ依リ身代限リノ處分ヲ受ルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ未タ其納期ニ至ラサルモ他ノ債主ニ先チ其税金ヲ徵收スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ酒類醬油造石稅ニ限リ其課額既ニ定リタル税金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ他ノ債主ニ先チ之ヲ徵收スヘシ
- 第十五條 前條ノ場合ニ於テ負債ノ抵償物件中徵收ヲ要スル税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタルモノアルトキハ其賣却代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充テタル後税金ヲ徵收スヘシ
- 第十六條 地方稅備蓄儲蓄金市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財產ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅ヲ先取スヘシ



第三章 期滿免除

第十七條 徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發セシテ納期限ノ翌日ヨリ起算シ滿三年ヲ經過スルトキハ納稅人ハ其義務ヲ免ル、モノトス

第十八條 納稅人法律命令ヲ犯シ脱稅ヲナシタル場合ニ於テ其公訴ノ期滿免除ト爲ルトキハ其脱稅金ノ追徵モ亦同時ニ免ル、モノトス

第十九條 國稅期滿免除ノ期限内ニ於テ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發シタルトキハ期限ノ經過ヲ中斷スルモノトス

期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷シタルトキハ更ニ其翌日ヨリ期限ヲ起算スヘシ但前後ノ日數ヲ通算シ滿五年ヲ過ルコトヲ得ス

第四章 附則

第二十條 市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ據リ市町村ノ爲スヘキ職務ハ區戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十一條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原嶋伊豆七嶋ニハ當分ニ之ヲ施行セス

○國稅徵收法施行細則

明治二十三年二月十二日 大藏省令第三號

明治二十二年三月 大藏省令第五號國稅徵收法施行細則左之通改正シ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

國稅徵收法細則施行

第一條 徵收法第八條市町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號第二號様式ニ依リ各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第三號様式ニ依リ調製スヘシ

第二條 府縣知事ニ於テ徵稅令書ヲ發シタルトキハ該納額ヲ收入官吏ニ達スヘシ

第三條 市町村長ニ於テ地租船車稅ノ徵稅傳令書發付後納期限以前ニ於テ土地若クハ船車ノ所有權移轉又ハ土地ノ質入ニ係ルモノアルトキハ曩キノ傳令書ヲ更正スヘシ

第四條 各納稅人ニ於テ稅金ヲ金庫ニ納付スルトキハ徵稅令書ヲ添付スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ稅金ヲ金庫ニ納付スルトキハ第四號様式ノ納付書ヲ添付スヘシ

第六條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十三號第十五條及第十六條ニ據リ金庫ニ拂込ムヘシ

第七條 各納稅人若クハ市町村長ハ稅金ヲ金庫ヘ納付シタルトキハ即時別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ收入官吏ニ請フヘシ

第八條 各納稅人若クハ市町村長ヨリ別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ請フトキハ收入官吏ハ即時ニ領收證書式ノ位置ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ

第九條 收入官吏ハ其切離シタル別符ニ領收證檢印濟ノ年月日ヲ記入シ其傍ニ檢印シ之ニ據リ收入簿及徵稅簿ニ記入スヘシ

第十條 收入官吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第二號ノ領收證ヲ發シ同時ニ收入簿及徵稅簿ニ記入スヘシ

第十一條 收入官吏現金ヲ金庫ニ拂込タルトキハ其別符附領收證ヲ府縣知事ニ送付シ別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ



第十二條 府縣知事ハ收入官吏ノ送付シタル金庫ノ領收證ヲ檢シ收入檢定簿ヲ備ヘテ之ヲ記入シ領收證書式ノ位置ニ檢印シ別符ヲ切離シ領收證ハ之ヲ返付スヘシ

第十三條 府縣知事ニ於テ收入官吏ノ送付シタル領收證ヲ檢シタルトキハ毎月其檢定報告書ヲ製シ翌月七日以内ニ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第十四條 收入官吏ハ毎日領收證ヨリ切離シタル別符及拂込額ノ總計金額ト金庫ヨリ毎日報告スル税金領收日計表ノ金額ト照査スヘシ

第十五條 收入官吏ハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第四號ニ據リ收入報告書ヲ調製シ收入金月計對照表ヲ添ヘ翌月七日マテニ府縣知事ニ送付スヘシ

第十六條 府縣知事ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ヲ取纏メ同式ノ毎月收入集計書ヲ添ヘ收入官吏ヨリ送付スル所ノ收入報告書及收入金月計對照表ヲ翌月十五日マテニ大藏省ニ送付スヘシ

第十七條 收入官吏ハ第五號第六號様式ニ據リ徵稅簿ヲ備ヘ調定額、收入額收入未濟額缺損額ヲ記載スヘシ

第十八條 收入官吏ニ於テ調製セル收入簿現金出納簿ハ明治二十二年大藏省令第十一號書式第十四號及第十八號ニ依ルヘシ

第十九條 收入官吏ハ第七號様式ニ據リ各納期後五十日以内ニ收入額收入未濟額及缺損額報告書ヲ調製シ府縣知事ニ送付スヘシ

第二十條 府縣知事ハ前條ノ報告書ヲ取纏メ更ニ同式ノ集計報告書ヲ調製シ各納期後六十日以内ニ大藏省ニ送付スヘシ

第二十一條 收入檢定簿、檢定報告書其他事務整理上必要ナル帳簿ハ便宜ノ式ニ據リ之ヲ調製スヘシ

スヘシ  
(様式略ス)

○國稅事務取扱ノ件 明治二十二年五月八日  
勅令第六十三號

朕國稅事務取扱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十二年七月一日以降各郡市役所所在地ニ府縣收稅部出張所ヲ設ケ收稅屬ヲシテ左ニ掲クル事項ヲ取扱ハシム

- 一 土地臺帳及地圖ニ關スル事項
- 一 國稅ヲ課スル諸營業鑑札下付ニ關スル事項
- 一 船車檢印ニ關スル事項
- 一 諸紙賣下ニ關スル事項
- 一 市ノ國稅徵收ニ關スル事項
- 一 國稅徵收法第十一條第十二條中收入官吏ノ職務ニ關スル事項



○市町村ノ徴取スル國稅ノ件 明治二十二年三月十三日  
勅令第三十三號

朕市町村長ヲシテ國稅ノ徴收ヲ爲サシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

左ニ掲クル國稅ハ明治二十二年三月法律第九號國稅徴收法第三條第一項ニ依リ市町村之ヲ徴收スヘ  
但シ菓子稅以下六項ハ隨時收入ニ係ルモノヲ除ク(廿三年二月勅令第十  
七號ヲ以テ但書追加)

- 一 所得稅
- 一 酒造稅則附則自家用料酒鑑札料
- 一 菓子稅中製造稅、製造營業稅、卸賣營業稅、小賣營業稅
- 一 煙草稅中製造營業稅、仲買營業稅、小賣營業稅
- 一 賣藥稅中營業稅
- 一 船稅
- 一 車稅
- 一 牛馬賣買免許稅
- 一 銃獵免許稅

○北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徴取ノ件 明治二十三年二月  
三日

法律第四號

朕北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徴收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼東京府管轄小笠原  
島伊豆七嶋ヲ除クニハ明治二十二年三月法律第九號國稅徴收  
法中第六條第七條第十條第十四條乃至第十九條ノ外他ノ條項ヲ施行セス此法律ニ據リ國稅ヲ徴  
收ス
- 第二條 北海道ニ於テハ水產稅ハ郡區長ヨリ水產物營業人組合ニ對シ其他ノ國稅ハ郡區長ヨリ戶  
長ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ
- 町村制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ嶋司ヨリ戶長ニ對シ徵稅令書ヲ發スヘシ
- 第三條 水產物營業人組合ハ其組合中ノ水產稅ヲ取纏メ之ヲ金庫ニ納付スヘシ
- 第四條 戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ徵稅令書ニ據リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人  
ニ發スヘシ
- 第五條 各納稅人ハ稅金ヲ戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ニ拂込ミ其領收證ヲ受クヘシ
- 第六條 戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ其領收シタル稅金ヲ金庫ニ拂込ミ其別符附領收證  
ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ
- 第七條 戶長又ハ水產物營業人組合納稅委員ハ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ其滯  
納ノ稅目金額及意納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ收入官吏ニ報告スヘシ
- 第八條 戶長ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

市町村ノ徴取スル國稅ノ件  
北海道及町村制ヲ施行セサル島嶼ノ國稅徴收ノ件



水産物營業人組合ハ過誤怠慢ニ依リ其取纏メタル税金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第九條 戶長又ハ水産物營業人組合ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ税金ヲ亡失シタルトキハ北海道廳長官若クハ縣知事ヲ經テ其責任ノ免除ヲ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十條 此法律ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

○北海道開墾地々租地方税免除ノ件 明治二十二年六月二十八日 法律第十八號

朕北海道開墾地租地方税免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十一年迄特ニ地租地方税ヲ免除ス其現ニ開墾期中ノモノハ滿期ノ翌年ヨリ尙ホ十箇年間地租地方税ヲ課セス

○沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件 明治二十二年十二月廿八日 勅令第四十一號

朕沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ハ會計法實施後左ノ各條ノ外ハ從來ノ慣例ニ依ルヘシ

第一條 納税人ハ税金 沖繩縣酒類出港稅ヲ除ク ヲ金庫ニ拂込ミ金庫ヨリ交付シタル別符附領收證ヲ收入官吏ニ差出シ其別符ノ切離及領收證ノ檢印ヲ受クヘシ

第二條 國稅品ハ納税人ヨリ直ニ收入官吏ニ納付スヘシ

第三條 前條國稅品ハ會計法規ニ依リ收入官吏之ヲ取扱ヒ其賣却代金ヲ領收シテ金庫ニ拂込ムヘシ但稅品ノ會計ハ本稅所屬ノ年度ニ依ル

北海道開墾地々租地方税免除ノ件  
沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七島ノ國稅徵收ノ件



○國稅滯納處分法 明治二十二年十二月二十日  
法律第卅二號  
朕國稅滯納處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國稅滯納處分法

第一章 總則

- 第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ關稅ヲ除クノ外總テ此法律ニ依テ處分ス
- 第二條 國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサル者アルトキハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ  
督促令狀ヲ發スルトキハ手數料トシテ一通ニ付金二錢ヲ徵收スヘシ
- 第三條 滯納者督促令狀ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ税金ヲ完納セサルトキハ其所有財産ヲ差押ヘ  
賣却シテ之ヲ徵收スヘシ
- 第四條 滯納者ノ納稅義務ハ滯納處分濟ヲ以テ終ルモノトス
- 第五條 滯納者財産ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス此場  
合ニ於テモ亦前條ニ同シ
- 第六條 滯納處分費滯納税金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス但滯納シタル税金ノ納  
期限ヨリ一箇年前ニ質入書入ト爲シタル財産ニ付テハ此限ニ在ラス
- 第七條 酒類醬油造石稅ニ付滯納處分ヲ爲ストキ其課額既ニ定マリタル税金ハ未タ其納期ニ至ラ  
サルモ滯納税金ト併セテ之ヲ徵收スヘシ
- 第八條 滯納處分費ハ左ニ掲クル費目ニシテ督促令狀手數料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ云フ
- 第一 督促令狀手數料

- 第二 差押調書及賣却調書調製費
- 第三 滯納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費
- 第四 評價人看守人又ハ競賣人ノ給料
- 第五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費
- 第六 公告費
- 第七 訴訟ニ要スル諸費
- 第九條 滯納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費税金ヲ完納スルトキハ其財産ノ差押ヲ解クヘ  
シ
- 第三者ヨリ滯納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ
- 第十條 滯納處分執行ニ關シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セス
- 第十一條 收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滯納處分ヲ爲スコトヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處  
分ヲ爲スヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ囑託スルコトヲ得但他ノ地方管内ニ係ルトキハ收入官吏ハ其  
所屬長官ヲ經テ囑託ノ手續ヲ爲スモノトス
- 第二章 差押
- 第十二條 財産差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシム  
ヘシ
- 第十三條 財産差押ヲ爲ストキハ處分費税金ニ充ル金額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ  
從ヒ其物件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ  
拘ハラス之ヲ差押フルコトヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價值ヲ減スヘシト  
認ムルモノハ其全部ヲ差押フルコトヲ得



- 第一 地金銀、公債證書、株券、手形、其他ノ證券
- 第二 農業其他營業上ノ生産物、製造物及賣品
- 第三 第一第二ニ掲ケナル動産及一月以内ニ收獲シ得ヘキ土地ノ生産物
- 第四 債主權
- 第五 不動産
- 第六 質入書入ト爲シタル財産但質屋營業者コ質入シタル動産ヲ除ク
- 第十四條 主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ニモ其効力チ及ホスモノトス
- 第十五條 滞納處分著手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滞納者ノ財産一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ
- 第十六條 第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滞納者所有ノ家屋倉庫其他滞納者所用ノ場所ニ現在スルモノハ滞納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得
- 第十七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取戻ヲ請求セントスル者ハ賣却決行ノ五日前マテニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取戻ヲ請求スヘシ
- 第十八條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
  - 第一 滞納者及其同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及廚具
  - 第二 滞納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭
  - 第三 實印
  - 第四 祭祀ニ必要ナル物品及石碑、墓地

- 第五 滞納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類
- 第六 滞納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭服、法衣
- 第七 勳章其他名譽ノ章票
- 第八 修學上必要ナル教科書、器具
- 第九 發明ニ係ル未定ノ物品、未タ發行セサル著譯書類
- 第十 滞納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇年前ニ記名シタル公債證書、株券手形、其他ノ證券  
但所得税ニ關シテハ此限ニ在ラス
- 第十九條 左ニ掲クル物件ハ他ニ處分費税金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルトキハ滞納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス
  - 第一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料
  - 第二 職業ニ必要ナル器具及材料
- 第二十條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スタメ滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルコトヲ得  
滞納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ收入官吏其場所ニ立入り取調ヲ爲スコトヲ得
- 第二十一條 收入官吏滞納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルハ日出ヨリ日没マテノ時間ニ限ルヘシ  
ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所用者若クハ其同居家族ヲシテ立會ハシムヘシ  
滞納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルトキハ隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立會ハシムヘシ



第二十二條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スニ當リ門戸倉庫房室及篋匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得

第二十三條 收入官吏財産差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ攜帶シ滯納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之ヲ示スヘシ

第二十四條 財産ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印シ其謄本ヲ立會人ニ交付スヘシ

第二十五條 通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第十條第二以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ之ヲ預ケ其預リ證書ヲ取ルヘシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ滯納者又ハ其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

第一 收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ

第二 運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ

此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルコトヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ

第二十七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ

負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滯納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ効ナキモノトス

第二十八條 不動産及船舶ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ

第二十九條 質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ差押物件、處分費、税金額及賣却決行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費税金ヲ完納シタルトキハ其差押ヲ解クヘシ

第三十條 財産差押ノ手續ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之ヲ爲スヘシ

第一 課税地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二 物件所在ノ場所

賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滯納者ノ請求アルカ又ハ收入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲グル場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルコトアルヘシ

第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限アル物件ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總價格一圓未満ノ差押物件ハ公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十二條 差押物件ヲ賣却セントスルトキハ收入官吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得



第三十四條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受ルコトヲ得ス

第三十五條 第十三條第一第二第三ノ物件ハ公告ノ日ヨリ十日以外第四第五第六ノ物件ハ二十日以外ニ於テ賣却ヲ爲スヘシ

第三十六條 差押物件損敗シ易キモノ又ハ多額ノ保存費ヲ要スルモノ又ハ其價額ヲ著シク減少スルノ恐アルモノナルトキハ前條ノ日限ニ拘ハラズ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三十七條 收獲前ニ差押ヘタル生産物ハ其成熟ノ後之ヲ賣却スヘシ

第三十八條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ負債者其義務ヲ認メタル後之ヲ賣却スヘシ若シ負債者其義務ヲ認メサルトキハ收入官吏ハ其差押ヲ解キ更ニ他ノ物件ヲ差押フルコトヲ得

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條 賣却ヲ爲スニ當リ買受望人ナキカ又ハ其買受價額カ豫定價格ニ達セサルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尙ホ買受望人ナキカ又ハ其買受價額尙ホ豫定價格ニ達セサルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費税金ニ充ツヘシ

第四十一條 賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其原本ヲ滞納者ニ交付スヘシ賣入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其原本ヲ交付スヘシ

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札違書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十三條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

第四十四條 賣却シタル物件賣入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費税金ヲ扣除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテ賣主ニ交付シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ若シ滞納税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ賣入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテ賣主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ扣除シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

第四十五條 債主ニ於テ滞納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十六條 債主ニ交付スヘシ若シ五日以内ニ滞納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之ヲ交付スヘシ

第四章 送達

第四十五條 滞納處分ニ關シ滞納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ

買受人賣却調書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ收入官吏ハ落札違書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

第四十三條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

第四十四條 賣却シタル物件賣入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費税金ヲ扣除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテ賣主ニ交付シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ若シ滞納税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ賣入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテ賣主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ扣除シ尙ホ殘餘アレハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ

第四十五條 債主ニ於テ滞納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送付スヘシ

第四十六條 債主ニ交付スヘシ若シ五日以内ニ滞納者ヨリ異議ヲ申立ルトキハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之ヲ交付スヘシ

第四章 送達

第四十五條 滞納處分ニ關シ滞納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ



使了ハ送達書類ヲ受取りタル者ヨリ領収書ヲ取リテ収入官吏ニ差出スヘシ若シ受取人領収書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使了代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第四十七條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領収書ヲ取リテ収入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ公示スヘシ

公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ揭示場ニ三日間揭示スルモノトス

前項ノ揭示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

第五十條 正當ノ理由ナクシテ第二十一條第一項ノ立會ニ應セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十一條 滯納處分ニ對シ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若クハ故意ニ毀損シタル者モ亦同シ情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ補助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

附則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長之ヲ行フヘシ

第五十三條 此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小原笠嶋伊豆七嶋ハ之ヲ施行セス

第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ牴觸スル條項ハ總テ廢止ス

○國稅滯納處分法施行細則 明治二十三年一月八日 大藏省令第一號

國稅滯納處分法施行細則左ノ通定ム

第一條 處分法第二條ノ督促令狀同第十二條ノ差押命令書ハ第一號様式第二號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 處分法第十八條第一第二ニ掲クル衣服、寢具、家具、廚具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニ依ルヘシ但其他例ナキモノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量ヲ殘シ置クヘシ

第三條 財産差押ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
- 二 動産ハ其名稱、種類、數量
- 三 不動産ハ其位置番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價地租
- 四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所
- 五 登記簿ニ登記アル賃入借入ノ金額、利子及其返濟期限、登記ノ年月日、債主ノ住所氏名又ハ



質入書入ノ登記アラサルコト

六 貸與シタル不動産ニ付テハ借主ノ住所氏名、其契約ノ要項返戻期限アレハ其期限及貸金

七 差押ノ事由及手續

第四條 債主權差押ノ通知書ニハ左ノ諸件ヲ記載シ收入官吏署名捺印スヘシ

一 差押ヘタル債主權ノ種類、員額

二 差押ノ事由

三 滞納者ニ對シ義務ノ履行ヲ爲スモ無効タルヘキ旨

四 此通知書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ其義務ヲ認ムルカ又ハ認メサル旨ヲ申立ツ

ヘキ旨

第五條 財産賣却ノ公告文ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 滞納者ノ住所氏名

二 動産ハ其名稱、種類、數量

三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租

四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

五 競賣若クハ入札ノ場所、日時

六 開札ノ場所日時

七 保證金ヲ徵スルトキハ其金額

八 代金納付ノ期限

九 條件附ノ不動産ナレハ其條件

十 其他隨時主任官吏ニ於テ定メタル公賣手續上ノ要件

第六條 競賣ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏競賣人ヲ命シテ之ヲ取扱ハシメ自カラ之ヲ監督スヘシ

入札ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ收入官吏自カラ之ヲ取扱フヘシ

第七條 賣却物件ノ買受人代金納付ノ期限内ニ代金ヲ完納セザルトキハ其物件ヲ交付セス更ニ賣却ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ保證金アルモノハ之ヲ還付セス其金額ハ處分費税金ニ補充スヘシ

第八條 財産賣却調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一 動産ハ其名稱、種類、數量

二 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租

三 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所

四 公告及賣却ヲ爲シタル方法

五 競賣ヲ爲シ又ハ入札ヲ開キタル場所、日時

六 三番札マテノ入札代價並其入札人ノ住所氏名

七 再公賣ヲ爲シタルトキハ其事由

八 保證金ヲ徵シタルコト及其金額

九 落札代價及落札人ノ住所氏名

十 代金納付ノ期限

第九條 處分法第四十條ニ依リ賣却物件ヲ政府ニ買上ルトキハ收入官吏該代金ヲ地方長官ニ請

求シ之ヲ支辨シ該物件ハ主管ノ官吏ニ引渡スヘシ

第十條 滞納處分濟ノ上國庫ノ損失ニ歸シタルトキハ處分濟ノ日ヨリ十日以内ニ收入官吏ヨリ



事由ヲ具シ其缺損額ヲ地方長官ニ稟申スヘシ

第十一條 處分法第十一條ニ依リ滯納處分ノ囑託ヲ受ケタル收入官吏ハ其處分ニ由リテ徵收シタル金額ノ内處分費ヲ扣除シ其殘金及諸書類ヲ囑託收入官吏ニ送付スヘシ若シ滯納者又ハ債主ニ交付スヘキ金額アリテ其者受託收入官吏ノ管轄地内ニ住スルトキハ受託收入官吏ニ於テ其金額交付ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 處分法第四十三條ニ依リ殘餘金ヲ滯納者ニ還付シ又ハ負債金額ヲ債主ニ交付スルトキハ左ノ諸件ヲ記載シタル計算書ヲ添付スヘシ

一 物件賣却代金

二 保證金ヲ還付セサルトキハ其金額

三 處分費各費目ノ金額及税金

四 債主ニ交付スヘキ金額及債主ノ氏名

五 滯納者ニ還付スヘキ金額

第十三條 處分法第四十五條ニ依リ使丁ヲ以テ書類ヲ送達スルトキハ第三號様式ノ送達書ヲ添付スヘシ

第十四條 處分法第四十八條ニ依リ市町村長ニ於テ送達書類ノ公示ヲ爲シタルトキハ直チニ其公示ノ日時ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

第十五條 督促令狀ヲ受タル後チ滯納者又ハ第三者ニ於テ滯納處分費及税金ヲ完納スルトキハ滯納處分費ハ第四號様式税金ハ第五號様式ノ納付書ニ督促令狀ヲ添付シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第十六條 賣却物件ノ買受代金ハ買受人ニ於テ第六號様式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付

スヘシ (様式略フ)

○間接國稅犯則者處分法 明治二十三年九月二十日 法律第八十六號

朕間接國稅犯則者處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法

第一章 犯則事件取調

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若クハ思料シタルトキハ其家宅倉庫其他ノ場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得 犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スルトキハ間稅官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ間稅官吏タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若クハ犯則ニ係ル物件其間稅官署ノ管轄區域外ニ在ルトキハ其地ノ間稅官署ニ證憑集取ヲ囑託スルコトヲ得

第三條 間稅官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ要要ナリト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第四條 間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ本人若クハ其同居ノ親族又ハ傭人ヲシテ立會ハシムヘシ

間接國稅犯則者處分法



本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員若クハ鄰佑二名以上ヲ立會ハシムヘシ

第五條 間稅官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ於テハ此限ニアラス

第六條 間稅官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

第七條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲナスニ由リ犯則物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ差押ヘテ封印若クハ認印ヲ爲シ差押目録ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑若クハ本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徵スヘシ若シ之ヲ間稅署若クハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其領收證ヲ取置クヘシ

差押物件ヲ市町村吏員若クハ鄰佑ニ預ケ又ハ間稅署若クハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其差押目録ノ原本ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條 間稅官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得第九條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルヲ能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 本人ノ氏名年齢身分職業住所  
二 犯則事件發見ノ手續及日時場所  
三 事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述  
四 差押ヘタル證據物件及種類數量并本人ノ物件ニ對スル辨解  
第二章 犯則者ノ處分

第十條 間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ處分請求書ヲ作り一切ノ書類物件ト俱ニ之ヲ管轄間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スヘキ物品并第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ

前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計三十圓ヲ超エサルトキニ限り間稅分署長之ヲ爲シ其他ハ間稅署長之ヲ爲スモノトス

第十二條 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セサル者ハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十三條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス第十四條 間稅官吏犯則事件ヲ覺知シタル場合ニ於テ本人ノ住所分明ナラス若ハ犯則事件禁錮又ハ拘留ニ該ルモノト認ムルトキ又罰金若ハ税金ヲ完約スルノ資力ナキ者ト認ムルトキハ該事件ヲ管轄裁判所ニ告發スヘシ

犯則者犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間稅官吏其物件ヲ差押ヘテ調書ヲ作り告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轄裁判所ニ引致シ其事件ヲ告發スヘシ  
一 犯則者逃走ノ恐アルトキ  
二 證憑毀滅ノ恐アルトキ

第三章 雜則  
第十六條 書類送達費及差押物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノ、運搬保管若ハ保存ニ要スル費用



ハ犯則者之ヲ負擔スヘシ  
 第十七條 間稅署長若ハ間稅分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ處アルトキハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ公賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付スヘシ  
 第十八條 此法律ニ於テ間稅官吏トハ間接國稅ノ檢査若ハ徵收ニ從事スル官吏ヲ謂フ  
 第十九條 間稅官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス沒收物件又ハ差押物件ヲ買受クルコトヲ得ス  
 第二十條 此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原嶼伊豆七島ニハ當分ニテ施行セス

○間接國稅犯則者處分法施行細則  
 明治廿三年十一月十日  
 大藏省令第三十一號

間接國稅犯則者處分法施行細則左ノ通相定ム  
 間接國稅犯則者處分法施行細則  
 第一條 間接國稅犯則者ノ處分ハ其犯則發覺ノ地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ爲スヘシ但犯則ノ地ト犯則發覺ノ地ト其管轄官署ヲ異ニシ犯則ノ地ニ於テ處分スルヲ便宜ナリト爲ストキハ之ヲ犯則ノ地ヲ管轄スル間稅署又ハ分署ニ移スヘシ  
 第二條 數箇ノ間稅官署ノ管轄區域内ニ於テ同一ノ犯則ヲ爲シタルモノアルトキハ最初ニ之ヲ發覺シタル地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ處分スヘシ  
 第三條 一稅則ニ付數罪俱發シタル場合ニ於テ其數罪中ノ一箇ノ罪若シ間稅署ノ處分權限ニ屬ス

ルトキハ其他ノ罪モ間稅署ニ於テ併セテ之ヲ處分スヘシ  
 第四條 間稅官吏犯則事件ノ證據集取ヲ爲スニ際シ若クハ間稅署長又ハ分署長ニ於テ犯則事件ヲ調査スルニ當リ其事件ニ牽連スル他人ノ普通犯罪ヲ發覺シタルトキハ其普通犯罪ハ管轄裁判所ニ告發シ其犯則事件ハ刑法第一編第七章ノ數罪俱發ノ例ヲ用ユルモノヲ除ク外處分法ノ定ムル所ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ  
 第五條 處分法第十一條第二項ノ合計價額ハ法律ニ於テ罰金ノ額ヲ一定セサルモノハ其罰金ノ最多額ヲ以テ之ヲ算シ沒收品ノ價額ハ間稅官吏ノ見積リ價額ヲ以テ之ヲ算スヘシ  
 第六條 間稅官吏ハ處分請求書ヲ差出シタル後ト雖モ若シ事實參考トナルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ  
 第七條 間稅官吏ハ犯則物件ニ付鑑定人ヲ必要ナリト思料シタルトキハ相當ノ者ヲ選テ鑑定ヲ爲サシメ其鑑定書ヲ徵スヘシ  
 第八條 間稅官吏犯則事件ノ捜査ニ著手シタルトキハ該事件罪トナラス若クハ證據不充分ナリト思料シ處分請求ヲ爲サル場合ト雖モ其取調書類ニ意見ヲ附シ直チニ之ヲ間稅分署長ニ差出スヘシ  
 第九條 犯則處分ニ關シ間稅官吏ヨリ間稅署長ニ差出スヘキ書類ハ所屬分署長ヲ經由スヘシ  
 第十條 間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルニ當リ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ間稅官吏ヲシテ之ヲ集取セシムヘシ  
 第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルモ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ處分請求書ヲ棄却シ差押物件ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ  
 前項ノ場合ニ於テハ處分請求書ヲ棄却シタル旨ノ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ



第十二條 第十一條ニ據リ處分請求書ヲ棄却シタルトキハ處分法第十六條ノ費用ハ之ヲ徵收セサルモノトス

第十三條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則者ニ於テ處分通告ノ旨ヲ履行セサルニ依リ管轄裁判所ニ該事件ヲ告發スルトキハ同時ニ處分法第十六條ノ費用ヲ該裁判所ニ訴求スヘシ

第十四條 處分法第十一條ノ沒收ニ該ル物品ニシテ市町村吏員又ハ隣佑若クハ本人ニ預ケタルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十五條 間稅署長又ハ分署長ニ於テ沒收品ヲ領収シタルトキハ之ヲ主管官吏ニ引繼クヘシ

第十六條 處分法第十一條ノ罰金其他ノ收入金ハ會計法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第十七條 處分法第十二條ニ掲ル七日ノ期限ハ通告書ヲ受取ルヘキ者ニ於テ之ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ

第十八條 間稅署長又ハ分署長ヨリ發スル通告書ハ便宜ニ依リ犯則者所在地ノ分署ニ郵送シ該分署ヨリ使丁ヲ以テ之ヲ本人ニ送達スルコトヲ得但本人ノ領収證ハ即日之ヲ通告書ヲ發シタル間稅官署ニ發送スヘシ

第十九條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則者若シ其管轄區域外ニ在ルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘキ金額物件ヲ犯則者所在地ノ管轄間稅分署ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

間稅署長ニ於テ各分署管轄内ニ在ル犯則者ニ通告ヲ爲ス場合モ亦同シ

第二十條 間稅署長又ハ分署長ハ前條ノ通告ヲ爲シタルトキハ該通告書ノ謄本ヲ犯則者所在地ノ間稅分署長ニ送付シ其金額物件ノ徵收方ヲ同署ニ移スヘシ

前項ノ場合ニ於テ犯者期限内ニ通告ノ旨ヲ履行セサルトキハ之ヲ通告書ヲ發シタル間稅官署ニ報告スヘシ

第廿一條 處分法第四條ノ親族ト稱スルハ刑法第一百四十四條第一百五條ノ例ニ依ルヘシ

第廿二條 凡ソ犯則處分ニ關スル書類ニハ每葉ニ契印スヘシ若シ文字ヲ挿入削除若クハ欄外ニ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ但シ削除シタルモノハ其字體ヲ存シ置キ其字數ヲ記載スヘシ

第廿三條 間稅分署長ハ其管轄内ニ於テ處置シタル犯則事件ノ處分表ヲ調製シ毎月五日期管轄間稅署長ニ報告スヘシ

第廿四條 處分法第一條第三項ノ間稅官吏タルノ證票同第十一條ノ送達書同第十二條ノ納證施行細則第廿三條ノ犯則事件處分表ハ第一號ヨリ第四號マテノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

(様式略之)



兵事

○徵兵令 明治二十二年一月廿一日  
法律第一號

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役



第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵

職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及嶋嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水

兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依

リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル嶋嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇

年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減ス

ルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校小學校及預科等府縣立師範學校中學校若ク

ハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル

學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ

試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服ス

ルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハザルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシ

滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ

教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラ

スシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス廿二

律第二十九號ヲ以テ本條中改正追加

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコト

ヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習

ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勤務演習及簡閱點

呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集

ス

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ癘疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシ

ム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿サル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期

ス



第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十一條 第十一條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス(廿二年法律第廿九號ヲ以テ改正)

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及収入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡點呼ノ爲メ召集スルコトナシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

#### 第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間(十二月一日豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキハ之ヲ徵集ス)

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

#### 第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ

書面ヲ以テ(月主ニ非サル者ハ其月主ヨリ)本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歲未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日(第十一條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起ス)ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス(廿二年法律第廿九號ヲ以テ本條附則追加)

#### 第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

#### 第七章 附則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス



第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原嶋ニハ常  
分之ヲ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間  
豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シ  
テ七箇年トス

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ  
仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過  
クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事  
故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タル  
ヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服  
セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ  
止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年  
以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志  
願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間明治二十一年  
十二月一日

算起ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第  
二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶  
豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ  
掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届  
出可シ

第四十七條 第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其就職ヲ罷ムル者ハ三日以  
内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第四十八條 第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サス  
テ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ(廿二年法律第廿九號ヲ  
以テ本條中改正追加)

○徵兵事務條例 明治二十二年二月二十五日  
勅令第十三號  
朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



徵兵事務條例

第一章 徵兵區

- 第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ
- 第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ
- 第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス  
一市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス  
數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其嶋廳ヲ置クモノ亦同シ
- 第四條 常備步兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管內最寄二大隊區ヨリ徵集スルヲ例トシ不足スルトキハ同管內他ノ大隊區ヨリ補充ス其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス  
近衛步兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス  
警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス  
海軍兵員ハ各師管內沿海及嶋嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

- 第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス
- 第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス
- 第七條 師管徵兵官ハ師管內府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其管內府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス
- 第八條 旅管徵兵官ハ旅管內府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管內府縣徵募事務ヲ執行ス
- 第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區內徵募區毎ニ大隊區司令官及嶋司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ

警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及嶋司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區內徵募準備事務ヲ執行ス

- 第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務執行中ハ陸軍二等軍醫正一名並府縣徵兵參事員四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸軍一三三等軍醫一名並郡市長徵兵參事員又ハ島嶼徵兵參事員各四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備隊區徵兵委員ヲ組織シ第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム
- 第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣會常置委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十二條 郡市長徵兵參事員ハ其郡市長島嶼內ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム  
郡市長島嶼徵兵參事員ノ選舉ハ被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル但被選人ハ其郡市長嶋嶼內ニ現住ノ者ニ限ル
- 第十三條 府縣徵兵參事員及郡市長島嶼徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得ス
- 第十四條 陸軍二等軍醫正ハ旅管內徵兵身體檢査ノ事務ヲ掌リ陸軍一三三等軍醫ハ専ラ身體ノ檢査ニ從事ス
- 第十五條 府縣郡市長及嶋嶼徵兵參事員ハ徵集延期又徵集猶豫ニ關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス
- 第十六條 第十條ニ掲グル徵兵委員ノ外旅團副官一名府縣屬若干名地方徵兵醫員一名ヲ以テ旅管徵兵署事務員トシ大隊區書記又ハ警備隊書記各一名嶋廳附府縣屬又ハ郡市長書記各一名地方徵兵醫員若干名ヲ以テ大隊區徵兵署事務員又ハ警備隊區徵兵署事務員トス
- 第十七條 旅團副官府縣屬大隊區書記警備隊書記嶋廳附府縣屬及郡市長書記ハ徵兵署ノ庶務ニ從事ス



第十八條 地方徵兵隊員ハ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス陸軍醫官ノ指揮ヲ受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十九條 毎年徵集ス可キ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ各師管ニ配賦ス

第二十一條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁名簿ヲ作り三月一日迄ニ嶋司又ハ郡長ニ差出シ嶋司郡長ハ點檢ノ後之ヲ一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出ス可シ

市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徵募準備事務執行ノトキハ各徵募區ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ設

土地廣潤壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ數箇ノ徵兵検査所ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ嶋司郡市長ニ協議シ徵兵署及検査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報ス可シ

嶋司郡市長ハ検査ノ日時、徵兵検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署及検査所ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ徵兵委員ノ面前ニ於テスルモノトス

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十八條 嶋司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實ノ審駁ニ任ス

第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ徵集ヲ延期シ又ハ徵集ヲ猶豫ス可キモノト

裁決シタトキハ各其證書ヲ附與ス

第三十一條 徵募準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ検査名簿其他終決ヲ受

ク可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出ス可シ但徵集延期及徵集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ

旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ嶋司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徵募

第三十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達スヘシ

府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ嶋司又ハ郡市長ニ達シ嶋司郡市長ハ豫メ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

抽籤ハ旅管徵兵委員及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽籤總代人之ヲ爲スモ



ノトス

抽籤總代人ハ籤丁ノ選ヲ以テ徵募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第三十五條 嶋司郡市長ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿二本ヲ作り其一本ハ之ヲ旅管徵兵官ニ差出シ他ノ一本ハ之ヲ保管ス可シ

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵官ハ常籤番號ノ順序ニ從ヒ新兵徵募ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ差出シタル書類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ヲ作ル可シ

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其證書ヲ附與ス

第三十八條 徵募事務終ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り師團長ニ差出シ又新兵名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及豫備徵員名簿ヲ大隊區司令官ニ交付ス可シ

近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致ス可シ

免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ

第三十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徵募豫備徵員及國民兵編入並免役ノ事ヲ裁決ス

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管徵兵官之ヲ爲ス

第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條第二十一條第二十八條ニ關スル大隊區徵

兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス

本條ノ訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ受理セス

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ其由ヲ届出可シ

第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添フ可シ

第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第七章 新兵

第四十七條 新兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵及輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應シ大隊區副官若クハ書記ヲシテ入營地ニ引率セシム但新兵五人未滿ナルトキハ引率セシムルヲ要セス

近衛新兵及海軍新兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラス大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引率セシメ新兵受領委員ニ交付スルモノトス但大隊區書記出發後到着シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ



第五十條 新兵入營前ハ轉籍ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セス但師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認メタル者アルトキハ其徵募區ヨリ同兵種ノ豫備徵員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵募區ヨリ徵集スルコト能ハサルトキハ大隊區内他ノ徵募區ヨリ補フ其配賦ハ各徵募區豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 新兵入營前癩疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス

第五十三條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内新兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ

第五十四條 新兵入營前轉籍セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十五條 新兵入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

#### 第八章 豫備徵員

第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從フ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム

第五十八條 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五十九條 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケシテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニシ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ

本條ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

#### 第九章 雜則

第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ復セントコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ク可シ

第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ

第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出ス可シ

其願書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ一月三十一日迄ニ本籍地ノ嶋司又ハ郡市長ニ願出可シ

嶋司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス



嶋司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添へ本人寄留地ノ嶋司郡市長ニ通知ス可シ

第六十四條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ難キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ嶋司又ハ郡市長ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診断書ヲ添フ可シ嶋司又ハ郡長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
第六十五條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診断書ヲ添フ可シ

其届書ニハ市村町長ノ與書證印ヲ受ク可キモノトス  
本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 徴兵署及徴兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤總代ノ旅費、新兵入營ノ旅費、府縣郡市嶋嶼徴兵參事員ノ手當金旅費、地方徴兵醫員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十七條 現役中疾病或ハ傷痕ニ依リ永久服役ニ堪へ難キ者ハ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ス其一時服役ニ堪へ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム

第六十八條 現役中徴兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家屬ノ願ニ由リ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ編入ス但現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム  
其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ之ニ同徴募區内現役兵ノ戸主二名ノ保證書ヲ添へ大隊

區司令官又ハ警備隊司令官及旅團長ヲ經テ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ差出ス可シ

第十章 附則

第六十九條 北海道廳管下函館江差福山其他嶋嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長地方官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設クルコトヲ得

第七十條 徴兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ同令第二十六條後段ノ例ニ準シ寄留地最寄ノ徴募區ニ於テ徴集ニ應スルコトヲ得

第七十一條 徴兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年又ハ翌年ノ徴集ニ應セシム但年齢二十六歳ヲ過クル者ハ此限ニ在ラス

第七十二條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ町村長ノ職務ハ町村制ヲ實施スル迄ハ戸長ニ於テ行フ可シ

第七十三條 第三條ノ徴募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル  
第七十四條 明治二十二年ニ限リ第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

○徴兵事務條例施行細則 明治二十二年二月廿八日 陸軍省令第一號

徴兵事務條例施行細則左ノ通定ム



第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附録第一様式ニ依リ之ヲ作リ一市一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其人ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印ス可シ

第二條 徵兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名書ヲ作リ壯丁名簿ニ添付ス可シ

第三條 條例第二十五條ノ徵兵署及徵兵検査所巡回日割ヲ定ムル爲メ嶋司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ報告ス可シ

第四條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所ハ嶋司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ撰定シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官到著ノ上之ヲ開設ス可シ

徵兵検査所ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ヲ經テ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概テ壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

第五條 大隊區徵兵署警備隊區徵兵署及徵兵検査所巡回日割既ニ定マルトキハ嶋司郡市長ハ其徵募區内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引繼メ徵兵署又ハ徵兵検査所ニ出頭セシム可シ

第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ嶋縣附府縣屬郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徵兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊徵司令官又ハ警備隊司令官ニ差出ス可シ

體格ノ等位ハ甲乙丙丁ノ四種ニ分チ其甲乙兩種ヲ合格トシ丙種ヲ徵集延期トシ丁種ヲ不合格トス

第七條 身體検査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ勉メテ別室若クハ隔障内ニ於テ之ヲ行フ可シ

第八條 身體検査ノ際現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ大隊區徵兵官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其景況書ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ具申ス可シ

其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徵兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得第九條 身體検査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人ノ名ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

第十條 徵兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ属シ第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ属スル者ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附録第二様式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ嶋嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徵兵令第二十條第二十一條ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ趣旨ヲ記載シ前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ可シ

- 一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ユル者
- 二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者
- 三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者
- 四 工兵ハ諸職工中殊ニ工兵ノ作業ニ適當シ管力アル者
- 五 輜重兵及輜重輸卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且管力アル者
- 六 職工ハ現ニ其職ニ從事シ又ハ嘗テ其職ニ從事セシ者

近衛諸兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選フ可シ

第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ選フ可シ



- 一 海員免狀ヲ受有シ海員ノ業ニ從事スル者
- 二 汽車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者
- 三 現ニ前項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上嘗テ之ニ從事セシ者
- 四 舟夫
- 五 漁夫

職工及雜卒ハ各其勤務ニ適當ノ者ヲ選フ可シ

第十三條 條例第二十九條ノ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵検査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノトス

第十四條 大隊區ニ於テ師團歩兵聯隊ノ配賦人員ヲ充スコト能ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄二箇ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル

第十五條 徵兵令第二十條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ止マサル者及同令第二十八條ニ當ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ郡市徵兵參事員又ハ嶋嶼徵兵參事員ヲシテ其當否ヲ審議セシメ之ニ意見書ヲ付シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

第十六條 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ徵集猶豫ノ期限間身體ノ検査ヲ行ハス

第十七條 疾病傷痕又ハ犯罪等ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵募區ノ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官若クハ徵兵検査所若クハ旅管徵兵官ニ出頭セシメ若クハ翌年ノ検査ニ回ス可シ但疾病傷痕ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ検査ス可シ

第十八條 旅官徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ旅團長到着ノ上之ヲ開設ス可シ

第十九條 抽籤施行ニ先ツ旅管徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ル可シ

籤ノ番號ハ合格者ノ數ニ應ジ第一番ヨリ起スヲ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附着シ其次番號ヨリ籤番號ヲ起ス可シ

第二十條 籤札ハ附録第三様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ旅管徵兵委員大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官列席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ嶋嶼附府縣屬郡市書記籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第二十一條 條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ一貫ノ番號ヲ記シ置キ總代人ノ抽ク毎ニ其住所氏名ヲ相當番號ノ下ニ記入ス可シ

第二十二條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其籤札ヲ嶋嶼附府縣屬又ハ郡市書記ニ渡シ嶋嶼附府縣屬郡市書記ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ割印ヲ押シ一人毎ニ之ヲ截チ切り總代人ニ交付ス可シ

第二十三條 検査合格者ハ左ニ掲クル順序ニ從ヒ現役兵ニ編入シ其要員ニ超過スル者ハ豫備徵兵員ニ編入ス



一 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者二人以上ナルトキハ年齢ノ順序ニ同年齡ノ者ハ誕生日ノ順序ニ從テ第二項第三項第五項第六項亦同シ

二 甲種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者

三 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者

四 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者番號ノ順序ニ從テ第七項亦同シ

五 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十八條ニ當ル者

六 乙種合格者ニシテ徵兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徵集スル者

七 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵署ニ於テ附錄第四第五第六第七様式ニ依リ新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ嶋嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徵兵令第二十條ニ依リ國民兵編入ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ又同例

第二十八條ニ依リ徵集スル者ニハ別ニ其裁決書ヲ作り前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第二十五條 條例第三十六條ノ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入名簿ハ徵兵検査名簿ヲ以テ編綴シ種類ヲ分チ冊尾ニ旅管徵兵官署名押印ス可シ

第二十六條 旅管徵兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ新兵監視名簿及豫備徵員監視名簿ヲ作り各監視區長ニ交付ス可シ

第二十七條 條例第三十八條ノ徵兵表ハ附錄第八様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第二十八條 壯丁名簿進達後検査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ徵募區ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ嶋司又ハ郡長ニ報告ス可シ但検査後抽籤前ニ係ルモノハ嶋司又ハ郡長ヲ經テ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

市ニ在テ検査名簿進達後抽籤前項ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

新兵入營前及豫備徵員ノ名簿ニ關スル異動轉入籍ヲ除クハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知ス可シ

第二十九條 検査後抽籤前徵募區外ニ轉籍スル者アルトキハ嶋司郡市長ヨリ検査名簿ヲ添へ轉籍地ノ嶋司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

其異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ徵集ス

第三十條 徵兵令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫中名簿ニ關スル異動ヲ生スル者アルトキハ嶋司郡市長ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フ可シ但郡又ハ嶋嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ嶋司又ハ郡長ニ報告ス可シ

他ノ徵募區ニ轉籍スル者ハ嶋司郡市長ヨリ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添へ轉籍地ノ嶋司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應ス可キ者ニシテ同令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫ト爲リ延期若クハ猶豫中本籍ニ復歸シ又ハ他ノ徵募區ニ寄留替ヲ爲シ更ニ其地ニ於テ徵集ニ應シ度キ旨一月三十一日迄ニ願出ルトキハ嶋司郡市長之ヲ許可スルコトヲ得

嶋司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添へ新住地ノ嶋司又ハ郡市長ニ通知ス可シ但寄留替ノ者ハ本籍ノ嶋司郡市長ニモ通知ス可シ

第三十二條 徵兵令第二十五條ノ届出期限後條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り嶋司又ハ郡長ニ差出ス可シ

市ニ在テハ市長壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署又ハ旅管徵兵署ニ提出ス可シ

第三十三條 新兵入營ノ期ニ先タチ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛海軍新兵集合地ニ到



ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ嶋司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達ス可シ

第三十四條 條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵受領委員ハ左ノ如シ

新兵五人以上五十人迄

新兵五十一人以上百五十人迄

新兵百五十一人以上三百人迄

新兵三百一人以上

下士若クハ上等兵、海軍ハ一等卒一名兵卒一名乃至三名  
中少尉、海軍ニ在テハ大一名下士若クハ上等兵一名乃至  
二名兵卒四名乃至六名  
中少尉一名下士若クハ上等兵二名乃至三名兵卒八名乃至  
至十名  
大尉一名中少尉一名下士若クハ上等兵三名乃至五名兵  
卒十名乃至十五名

第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵集合地ハ左ノ如シ

第一師管ハ東京、横須賀

第二師管ハ仙臺、白河

第三師管ハ四日市、沼津

第四師管ハ神戸

第五師管ハ廣嶋、吳、丸龜

第六師管ハ長崎、佐世保、大分

第三十六條 近衛、海軍新兵入營ノ期ニ先タチ近衛及鎮守府ニ於テ新兵ノ集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒ス可シ

第三十七條 條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參ノ者アルトキハ新兵引率ノ大隊區副官若クハ書記ヨリ各隊長又ハ近衛、海軍新兵受領委員ニ其由ヲ通知ス可シ

第三十八條 條例第五十一條ニ依リ豫備徵員ヲ以テ新兵ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ

第三十九條 徵兵令第二十七條ニ依リ翌年回ト爲リタルモノハ其年ノ新兵同時ニ入營セシム可シ但本條ノ人員ハ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘサルモノトス

第四十條 新兵入營前癘疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタル者アルトキハ其診斷書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ旅團長ニ具申ス可シ

第四十一條 條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル新兵ノ異動ハ大隊區司令官ヨリ旅團長ニ報告ス可シ但新兵名簿送致後ニ在テハ旅團長ヨリ各隊長又ハ近衛都督若クハ鎮守府司令長官ニ通牒ス可シ

第四十二條 新兵入營前他ノ師管ニ轉籍シ隊籍ヲ變更スヘキ者アルトキハ本人名簿ヲ添ヘ旅團長ヨリ之ヲ轉籍地ノ旅團長ニ通牒ス可シ

第四十三條 新兵豫備徵員ニシテ轉籍シタル者ノ新兵證書豫備徵員證書ハ總テ轉籍地ノ大隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ

第四十四條 新兵證書豫備徵員證書國民兵證書及免役證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ新ニ渡方ヲ嶋司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

(附錄様式略ス)



○徵發令 明治十五年八月十二日太政官布告  
第四十三號

徵發令別冊ノ通制定ス

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 陸軍卿海軍卿鐵道司令官及ヒ鎮守府長官

二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

官又ハ艦長

第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區ニ准ス<sup>會社之ヲ定ムルコト左ノ如シ</sup>

一 第十二條第一項ハ

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ

三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ

四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ機車ハ

第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

府縣  
郡區  
町村  
會社

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス

第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事「縣令」郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲ

シテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商法其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノノ左ノ如シ

一 米麥秣糠鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭

二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具

三 人夫

四 宿舍厩園及ヒ倉庫

五 飲水石炭

六 船舶

七 鐵道機車

徵發令



八 演習ニ要スル地所

九 演習ニ要スル材料器具

第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ

但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

一 造船所工作所及軍事ノ工作ニ要スル材料器具

二 職工鍛夫洗濯人ノ類

三 被服裝具脚鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ綑帶具

四 水車搗春ノ類

五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一 皇族所用ノ車馬

一 外國公使館并ニ領事館ニ屬スル車馬

三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹

四 郵便用ノ車馬

五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一 公務ニ屬スル廨署

二 皇族ノ邸宅

三 外國公使館領事館及其所屬館

四 鐵道電信郵便用ノ建造物

五 陸海軍將校并ニ同等官現任ノ家屋

六 博物館書籍館

七 病院盲啞院藥兒院

八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス

九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ

一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

トヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス厩園倉庫

亦同シ

第二十二條 宿舍厩園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス



第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム  
第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵  
用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例ト  
ス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變  
ノ際ニ限ル但船橋及ヒ解船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分  
別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地  
境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ  
紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事「縣令」郡區長戶長停車場長船組會社ノ店長ヨリ之  
ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和  
セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス  
其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戶長ニ届出可シ其届出ハ徵用

濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内中持主若クハ操業者ニ於テ使用  
セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ  
定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ  
各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地  
ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場  
合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依  
リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキ  
ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用  
ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ



一 出航ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃  
 二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命ジタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿テタル以上ハ前項ノ  
 例ニ准ス若シ之ニ滿テサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃  
 三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額  
 ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額  
 第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船實費及ヒ船舶ノ損料ト  
 ス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス  
 第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ  
 損料トス但船橋及ヒ船艙ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス  
 第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス  
 第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代  
 價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス  
 第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキ  
 三限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス  
 第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス  
 第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ  
 賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス  
 第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス  
 第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從テ賠償ス全ク明渡サシムルト  
 キハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十二條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノ  
 ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第五十三條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事「縣令」郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲  
 サルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出  
 ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第五十四條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲安ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ  
 出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○徵發費用怠納者處分並ニ其費用ニ關シ出訴方  
 明治十六年八月八日  
 太政官布告  
 第二十一號

徵發令ニ依リ負擔ス可キ費用ノ怠納者ハ明治十年十一月十七號第九號布告ニ依リ處分ス可シ但財產  
 公賣ノ際買受人ナキトキハ徵發區ニ没入シ不足金アルトキハ其區ノ損失ニ歸ス  
 右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アル者ハ明治十五年五月第五號貳拾貳號布告ニ依ル可シ

○徵發事務條例  
 明治十五年十二月十八日太政官布達  
 第二十六號  
 徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム

徵發費用怠納者處分並ニ費用ニ關シ出訴方  
 徵發事務條例



(別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規程ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦隊長ハ其獨立中ニ限り徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令長官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長<sup>士官ヲ言</sup>以上<sup>士官ヲ言</sup>トハ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖モ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス<sup>(廿三年九月五日勅令第百九十六號ヲ以テ追加)</sup>

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場處ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人二人<sup>其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同</sup>立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシムヘシ

第九條 徵發課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付スヘキモノヲ町村ニ付シ店長ニ付スヘキモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事「縣令」郡區長戶長若クハ店長ニ其旨ヲ通知スヘシ

徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限り場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得<sup>(廿三年九月五日勅令第百九十六號ヲ以テ追加)</sup>

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告スヘシ



町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事「縣令」ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事「縣令」ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ検査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事「縣令」其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事「縣令」ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事「縣令」徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事「縣令」郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領證票ハ附錄第二號雜形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除外ノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ掲クルモノ船橋及ヒ船橋ヲ除クヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ付スルコトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一箇月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノハ徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサル片ニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサラシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雜形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ(十九年閣令第十號ヲ以テ改正)

鐵道局長及鐵道會社社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ雜形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限り同省ヘ送付スヘシ又新タニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ(廿三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ追加)

第二十二條 (十九年閣令第十號ヲ以テ刪除)

第二十三條 (十九年閣令第十號ヲ以テ刪除)

第二十四條 北海道廳長官府知事ハ三箇年毎ニ附錄第三號二三ノ雜形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限り陸軍省ヘ送付スヘシ(廿三年九月勅令百九十六號ヲ以テ改正)



第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一二三ノ雛形ニ依リ西洋形船舶器械製造修葺場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表ヲ製シ毎年三月三十一日限り海軍省へ送付スヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ附錄第五號一二ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限り海軍省ニ送付シ管内ニ於テ新造シ若クハ買入レタル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルトキハ第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々海軍省ニ送付スヘシ但海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直チニ送附セシムルコトヲ得(廿三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ改正)

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限り其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ヌ又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貨厩等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルヲ左ノ如シ

- 一 麻署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
- 二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋
- 三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室
- 四 士官又ハ同等軍屬二名 一室
- 五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊

六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半

七 徵發ニ應ジタル人員三名 二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物

二馬 駐軍中 朝大麥二升秣藪五百目 晝秣藪五百目 夕大麥二升秣藪五百目 晝秣藪五百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藪五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藪一貫目 晝秣藪五百目

小麥ヲ大麥ニ喰糲ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝小麥一升 晝秣藪一貫目 晝小麥五合 夕小麥一升五合 晝秣藪二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰糲ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升 晝搗麥一貫目

晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升 晝搗麥一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス



第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社食飼ニ供ス可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ請負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ準ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定貨ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコトヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス(二十三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ本條改正ス)

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ(廿三年九月勅令第百九十六號ヲ以テ改正)

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセシカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事「縣令」郡

區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事「縣令」郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲グルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領證票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不合法ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戶長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ検査シ其調査書ヲ作り供給者ノ請求金額ヲ其關係ルモノハ之ヲ添フ

徵發事務條例



ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記  
ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難  
ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事「縣令」ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均  
價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行  
軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上  
供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戸長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シ  
ト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從  
ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航舶實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航舶中現ニ消耗シタ  
ルモノ、代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セ  
ス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ  
總テ之ヲ賠償ス

總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戸長一名及  
ヒ其町村評價ヲ爲ノ場所ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノノナキトキハ他二  
名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸  
軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制  
ス

算五十六條 評價委員ニ擧用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方官吏若クハ戸長ニ  
於テ擧舉ス可キモノトス

其擧舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其擧舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日常ヲ  
給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戸長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍  
官憲ヨリ之ヲ府知事「縣令」郡區長若クハ戸長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノ、種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要ト  
ス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償  
金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナ  
リト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由







治趣ヲ異ニセシヨリ僅ニ東西ヲ隔ツレハ忽チ情態ヲ殊ニシ聊カ遠近アレハ即チ志行ヲ同フセス隨テ戸籍ノ法モ終ニ錯雜ノ弊ヲ免レヌ或ハ此籍ヲ逃レ或ハ彼籍ヲ欺キ去就心ニ任セ往來規ニヨラス沿襲ノ習人々自ラ度外ニ附スルニ至ル故ニ今般全國總体ノ戸籍法ヲ定メラル、ヲ以テ普ク上下ノ通義ヲ辨ヘ宜シク粗略ノコナカルヘシ

第一則

戸籍舊習ノ錯雜アル所以ハ族屬ヲ分ツテ之ヲ編製シ地ニ就テ之ヲ收メサルヲ以テ遺漏ノ事アリト雖モ之ヲ檢査スルノ便ヲ得サルニ依レリ故ニ此度編製ノ法臣民一般ニ依テ之ヲ遵守シ其住居ノ地ニ就テ之ヲ收メ專ラ遺スナキヲ旨トス故ニ各地方土地ノ便宜ニ隨ヒ豫メ區畫ヲ定メ每區戸長並ニ副ヲ置キ長並ニ副ヲシテ其區内戸數人員生死出入等ヲ詳ニスル事ヲ掌ラシムヘシ

第二則

戸長ハ必ス長ト副トニ限ルヘカラス時宜ニヨリ長副數名アルモ妨ケナシトス但戸長ノ務ハ是迄各處ニ於テ莊屋名主年寄觸頭ト唱ル者等ニ掌ラシムルモ又ハ別人ヲ用ユルモ妨ケナシ

第三則

凡ソ區畫ヲ定ムル譬ハ一府一郡ヲ分テ何區或ハ何十區トシ其一區ヲ定ムルハ四五丁モシクハ七八村ヲ組合スヘシ然レ共其小ナルモノハ數十ニ及ビ大ナルモノハ一二ニ止ルモ都テ其時宜ト便トニ任セ妨ケナシ凡ソ區畫ヲ定ムル譬ハ一府一郡ヲ分テ何區或ハ何十區トシ其一區ヲ定ムルハ四五丁モシクハ七八村ヲ組合スヘシ然レ共其小ナルモノハ數十ニ及ビ大ナルモノハ一二ニ止ルモ都テ其時宜ト便トニ任セ妨ケナシ

第四則

戸長其區内ノ戸籍ヲ式ノ如ク之ヲ集メ二通ヲ清書シ更ニ第一號ト第二號ト式ノ如ク其區内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り其集ル所ノ籍ハ戸長ニ備ヘ置清書二通リト共ニ其支配所ニ差出スヘシ支配所之ヲ其應ニ差出シ其應之ヲ第五號第六號ト式ノ如ク其管内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り戸籍一通ハ其應ニ備ヘ置キ一通ニ應印ヲ押シ表ト共ニ六ヶ年目ニ改メ太政官ヘ差出スヘシ但支配所ナキ所ハ直ニ其應ニ出スヘシ以下準之

第五則

編製ハ爾後六ヶ年目ヲ以テ改ムヘシト雖モ其間ノ出生死去出入等ハ必其時々戸長ニ届ケ戸長之ヲ其應ニ届ケ出テ支配所アルモノハ支配所ニ其應之ヲ受ケ人員ノ増減等本書ヘ加除シ、毎年十一月中戸籍表ヲ改メ十二月中太政官ヘ差出スヘシ加除ハ生ルモノト入ルモノトヲ加ハ死出ルモノト除クモノトヲ加

第六則

管轄應ニ於テ戸籍專任ノ吏員ヲ置キ其事ニ擔當セシムヘシ若シ遺漏粗略ノ事アルニ於テハ其吏員並ニ戸長月長ナキ大社ノ責タルヘシ

第七則

區内ノ順序ヲ明ニスルハ番號ヲ用ユヘシ故ニ每區ニ官私ノ差別ナク臣民一般番號ヲ定メ其住所ヲ記スニ都テ何番×屋舖ト記シ編製ノ順序モ其號數ヲ以テ定ルヲ要ス但區内ノ屋敷亡所トナリ又ハ一戸ヲ割テ二戸トシ二戸ヲ合セテ一戸トナスコアルモ其由ヲ戸籍ニ記シ番號ハ其儘據置六ヶ年目ニ至リ改ムヘシ

戸籍法

十一年第十七號布告ニ依リ消滅

同上

五年太政官第百十七號ニ依リ消滅

十一年第十七號布告ニ依リ消滅

\*六年太政官第百四十二號參看

同上

十九年内務省令第十九號ヲ以テ出生死去出入届出方ヲ定ム  
\*十年太政官第百十號ヲ以テ製表差出ヲ止ム

\*五年太政官第四號參看



第八則

各地方貫屬或ハ平民等事務アリテ全戸他ノ管轄所ニ引移ルモノハ其由ヲ本貫管轄廳へ願出其廳ヨリノ送リヲ取リ在留地ノ廳ニ届ケ出其所ノ籍ニ編入スヘシ又故アリテ元ノ管轄所へ引移ル時ハ之ヲ戻ス其始メ出ル時ノ如ク其所ノ籍ニ編入スヘシ

但當時全戸既ニ引移リシ官員ノ如キハ其官省ヨリ名前書ヲ在留地ノ廳ニ達シ夫ヲ證トシ其住居ノ地區ニテ其籍ヲ收ムヘシ又本貫管轄廳ニハ其由ヲ其官省ヨリ達シ其廳之ヲ聽キ其所ノ籍ヲ除クヘシ尤此ヨリ後引移ルモノハ此限ニアラス送籍スルコト本條ノ如クスヘシ第八則若シ全戸引移ルト雖モ情故アリテ本貫管轄廳ノ籍ニアルヲ願フモノハ其地奇留ノ部ニ入レ情願ニ任スルモ妨ナシ

第九則

他ノ管轄地ニ引移ル時元ノ廳ヨリ送籍スルニハ其當人ヨリ元住所ノ組合並ニ戸長ニ其由ヲ届ケ長副連印シ其廳ニ届ケ其廳之ヲ受ケ其廳聽知ルノ證ヲ押シ當人ニ渡スヘシ

但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ之ヲ達セシメ往來困却ノ弊ナカラシムルヲ要ス

第十則

他ノ管轄所ヨリ此管轄所ニ入籍スル時ハ元ノ管轄所ノ證ヲ持參シ其入ル所ノ戸長ニ其由ヲ通シ戸長其相違ナキヲ糾シ其所ノ籍ニ入ルヘシ而シテ戸長其元廳ノ證ト其入籍セシ事ノ由ヲ時々其廳ニ届クヘシ

第十一則

管轄内甲ノ區ヨリ乙ノ區ニ移ルカ如キモ第八則ヨリ第十則迄ノ例ヲ見合スヘシ但管轄内ナルヲ以

同上

同上

第十二則

全戸引移ラス又ハ一時公私ノ用ニテ寄留スルモノハ其本貫管轄廳ノ鑑札ヲ持參シ寄留地戸長ニ通シ其寄留スル所ノ廳ニ名前書ヲ添ヘ鑑札ヲ差出シ其廳之ヲ受ケ即チ其廳ノ鑑札ト引替遣スヘシ鑑札ニハ當人名住所職分ヲ記スヘシ而シテ其者歸國スル節ハ同様ノ例ヲ以テ元ノ鑑札ト引替歸國名住所職分ヲ變スル時ハ引替ヘシ

但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ引替シムヘシ故ニ鑑札ハ豫メ支配所ヘモ備ヘ置クヲ要ス

鑑札引替ノ節其戸長官ノ學校兵隊屯所ノ如キニ差出ス名前書ニハ官員ハ當人兵隊長證印シ自餘ハ其役場大社大寺ノ執事

戸主備主請人等證印スルヲ要ス名前届書式ハ第三號見合スヘシ

第十三則

修行又ハ奉公ノ爲メ他國ニ寄留スルモノモ第十二則ノ例タルヘシ第八則但書ト見合スヘシ

但是迄修行又ハ奉公イタシ寄留スル者及ヒ事務アリテ寄留スルモノ其本貫ノ廳ニ届ケ鑑札請取第十二則ノ例ヲ以テ引替ヘシ若シ道路懸隔リ當人ヨリ本貫ノ廳ニ届ケ難キ事故アル者ハ其寄留地ノ廳ニ於テ戸主備主請人等ノ證書ヲ出サシメ其廳ヨリ直ニ其本貫ノ廳ニ掛合鑑札受取ヘシ



第三百六十五號ヲ以テ鑑札廢止ニ依リ消滅

第三百六十五號ヲ以テ鑑札廢止ニ依リ消滅

\*五年正月十日大藏省達ヲ以テ廢止

八年太政官第二十號達ヲ以テ廢止

但、自、今、以、後、ハ、此、例、ニ、ア、ラ、ス、

第十四則

凡、ソ、旅、行、ス、ル、モ、ノ、官、員、ハ、其、官、省、等、ノ、鑑、札、ヲ、所、持、シ、自、餘、ハ、臣、民、一、般、其、管、轄、廳、ノ、鑑、札、ヲ、所、持、ス、ヘ、シ、留、

第十五則

但、其、管、轄、廳、ノ、鑑、札、ニ、ハ、當、人、名、住、所、ト、職、分、ヲ、記、ス、ヘ、シ、名、住、所、及、職、分、ヲ、變、セ、シ、時、ハ、右、鑑、札、ヲ、引、替、

第十六則

宿、帳、ハ、七、日、目、毎、ニ、驛、遞、ハ、其、驛、出、張、ニ、驛、遞、掛、ノ、改、ヲ、受、自、餘、ハ、其、戶、長、ヘ、出、シ、改、ヲ、受、ク、ヘ、シ、旅、籠、屋、ニ、限、

第十七則

各、地、ニ、出、張、ス、ル、官、員、出、入、ト、モ、其、管、轄、廳、ヘ、届、ケ、其、出、張、先、ノ、地、方、廳、ヘ、モ、届、ク、ヘ、シ、

但、地、方、ノ、廳、應、隔、リ、シ、場、所、一、時、出、張、シ、或、ハ、急、遽、ノ、事、務、等、ア、ル、ハ、其、手、續、ナ、キ、ア、ル、ヘ、シ、

第十八則

僧、侶、ハ、其、得、度、ノ、地、ヲ、以、テ、本、貫、ト、シ、他、寺、ニ、轉、住、ス、ル、時、ハ、送、籍、シ、行、脚、遍、參、ス、ル、モ、ノ、寄、留、地、ニ、於、テ、鑑、札、

第十九則

鑑、札、ヲ、所、持、シ、テ、出、奔、死、亡、シ、或、ハ、刑、ニ、處、セ、ラ、レ、歸、國、セ、サ、ル、モ、ノ、ハ、其、所、ノ、官、司、ヨ、リ、其、由、ヲ、本、貫、ノ、廳、ニ、

第二十則

六、ケ、年、目、毎、ニ、戶、籍、ヲ、改、ム、ル、ニ、當、リ、テ、其、戶、籍、取、集、メ、シ、上、ハ、日、限、ヲ、定、メ、其、區、々、ニ、於、テ、長、並、副、區、内、一、戶、

第二十一則

凡、ソ、戶、籍、ヲ、檢、査、ス、ル、ハ、遺、漏、ア、ル、ヘ、カ、ラ、ス、又、重、複、ス、ヘ、カ、ラ、ス、二、ツ、ノ、者、ノ、弊、ア、レ、ハ、檢、査、ノ、要、ヲ、失、フ、尤、

同上

六年太政官第二百四十二號ヲ以テ六ケ年目改テ止ム

第三百六十五號ヲ以テ鑑札廢止

七年第八號第七十四號布告ヲ以テ僧尼族籍ヲ定ム

戶籍法



同上

六年太政官第二百四十二號ヲ以テ六ヶ年目改テ止ム

十年太政官第二十號ヲ以テ戸籍表差出テ止ム

十五日ヲ以テ終ルヲ法トスヘシ此間凡

第二十二則

六ヶ年目毎ニ二月一日ヨリ五月十五日迄凡百日ノ間ハ戸籍ノ出入ヲ止ムヘシ但不得已事故アルニ由リ其人ハ移轉セシメ他ノ所ニ行カシムト雖モ戸籍ノ調ハ其本住所ノ廳ニテ之ヲ取集ムヘシ此百日ノ間ニ一般ノ戸籍調終ルヲ待テ五月十六日ヨリ送籍入籍ノ事ヲ所置スヘシ

但戸籍検査ノ日ニ當リテ二月一日ヨリ五月十日迄凡百日ノ間 不得已移轉セシモノハ送籍入籍ノ時ヨリ必ス其由ト其月日トヲ本書ニ書顯スヘシ

第二十三則

六ヶ年目毎ニ五月十六日迄ニ戸籍検査既ニ終リ其廳ニ於テ六月中第四則ノ例ノ如ク其管轄内總計ノ戸籍表ヲ作り如ク第五號式 本書共ニ七月中太政官ヘ差出スヘシ第四則ト見合スヘシ

但一紙ハ其廳ニ留置毎年出ス所ノ表ノ基トスヘシ

第二十四則

寄留者ノ届書ハ其寄留スル支配所ニテ其時々之ヲ記録シ寄留表ヲ第七號式ノ如ク製シ出入人員増減ヲ隔月検査シテ其廳ニ出シ其廳之ヲ受ケ毎年十二月太政官ヘ差出スヘシ但支配所アルハ其支配所ト表ノ左傍ニ記スヘシ

第二十五則

三都府ハ人民輻輳ノ地ナルヲ以テ寄留表ハ他ノ藩縣ニ拘ラス隔月検査ノ時々即チ太政官ヘ差出スヘシ

第二十六則

民産調ノ如キハ一般ノ御布告アルヘシト雖モ此迄地方官ニテ戸籍中家産等書載サセ來リシハ其儘

出スヘシ

第二十七則

戸籍表ノ用紙ハ厚紙ヲ用ヒ戸籍ノ用紙ハ美濃紙ノ寸法ヲ準トシ公用ノ紙ヲ用ユヘシ戸長ト其廳ヘ収ムル分ハ其土地求メ易キ適宜ノ品ヲ用ユヘシ故ニ毎區戸長ヘ本書分ノ公用紙ヲ其廳ヨリ下ケ渡スヘシ

第二十八則

各地ノ戸籍一例ナルヲ要スレハ字ノ細大行ノ高低ハ其記事ヲ標別スル爲ナルヲ以テ能ク注意シ成丈ケ細字ニ記スルヲ要ス

第二十九則

此迄厄介ト號セシモノ或ハ縁故アリテ養育スルモノ等ハ其族屬ト續柄ヲ肩書ニシ其事由ヲ其名前ノ上ニ記スルヲ左ノ如クスヘシ

第三十則

華族等ノ從僕其邸内ニ住居シテ一戸ヲナセルモノハ式ノ如ク其主人ノ次ニ記シ社中寺内ニアルモノ此例ニ準スヘシ

第三十一則

凡ソ僧尼ハミナ式ニ依テ其本貫得度ノ年月及ヒ其所ヲ記シ院内受職ノ外ハ皆弟子ヲ以テ記スヘシ

第三十二則

穢多非人等平民ト戸籍ヲ同フセサルモノ、如キハ其最寄ノ區ニテ其戸長ヘ名前書ヲ出サセ、其人員男女ヲ分チ戸籍表ニ書入レ差出シ應ニテモ戸籍表ニ入ル、式ノ如クスヘシ

戸籍法

七年第八號第七十號布告ニ依リ消滅  
第四百四十九號ニ依リ消滅

同上







ハ之ニ認印ヲ捺シ且其剛ルヘキモノハ朱線ヲ畫シ原文ヲ存スヘシ

第五條 戶籍簿ノ改製ヲ要スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ受ケテ之ヲ爲スヘシ

第六條 戶籍簿燒亡紛失シタルトキハ郡役所又ハ管轄廳ニ納メ置キタル副本ニ據リ編製スヘシ

第七條 戶籍簿ノ改製又ハ編製ヲ爲シタルトキハ郡長又ハ管轄廳ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ但改製ニ係ル原戶籍簿ハ小クモ五十年間之ヲ保存スヘシ

登記

第八條 戶籍ニ關スル届書ヲ受領シタルトキハ先ツ届出ノ事項及届出期限アルモノハ其事項ノ年月日並届出ノ年月日届出期限ナキモノハ其届出ノ年月日ヲ登記目錄ニ記入スヘシ但本籍地

外ニ在ル者ニ係ル事項ニシテ届出期限アルモノハ届書發送及受領ノ年月日ヲモ之ニ記入スヘシ

第九條 登記目錄ハ左ノ三種ニ分テ毎年一種毎ニ之ヲ編製スヘシ但一種中ニ部門ヲ設ケ之ヲ分綴スルモ妨ケナシ

一 加籍目錄

一 除籍目錄

一 異動目錄

第十條 第八條ノ手續ヲ了リタルトキハ直ニ戶籍ニ届出ノ事項及届出期限アルモノハ其事項ノ年月日届出期限ナキモノハ届出ノ年月日ヲ登記シ届書ニハ受領ノ年月日及登記濟ノ旨ヲ記入スヘシ

第十一條 戶籍ニ入ル者アルトキハ其戶籍ノ末ニ登記スヘシ戶籍ヲ除ク者アルトキハ其事項ヲ朱ニテ登記シ且其氏名ニ朱線ヲ畫スヘシ

第十二條 全戶入籍スル者アルトキハ直ニ戶籍簿ニ編入スヘシ

第十三條 全戶除籍スル者アルトキハ朱ニテ登記シ其戶籍ニ朱線ヲ畫シ便宜之ヲ除籍簿ニ移スヘシ

第十四條 戶主ニ代替アルトキ家族ハ總テ新戶主ノ續柄ヲ以テ戶籍ヲ改寫スヘシ但舊紙ハ官印ヲ以テ新紙ト割印シタル上除籍簿ニ移シ綴ツヘシ

第十五條 戶籍ニ登記シ諸届ニ記入シタルトキハ總テ之ニ認印ヲ捺スヘシ又諸届ハ一箇月分ヲ類集分綴シ翌月中ニ郡役所區役所ハ管轄廳ニ送付スヘシ但郡役所又ハ管轄廳ニ於テハ戶籍簿ヲ改製スル時マテ之ヲ保存スヘシ

送籍入籍

第十六條 送籍ヲ請求スル者アルトキハ戶籍用紙ヲ以テ送籍狀ヲ作り直ニ入籍地ノ戶長區長ハハ發送シ且其送籍ノ事項及發送ノ年月日ヲ登記目錄ニ記入スヘシ

第十七條 人別ノ送籍狀ニハ其人別ニ關シ戶籍ニ登記シタル事項及戶主ノ氏名身分住所ヲ記載スヘシ

第十八條 全戶ノ送籍狀ニハ戶籍ニ登記シタル事項ヲ遺漏ナク記載スヘシ

第十九條 入籍ヲ届出ルトキハ原籍地戶長區長ハヨリ送達シタル送籍狀ト照査シ入籍ノ手續ヲ爲シ五日以内ニ入籍報知書ヲ原籍地戶長ヘ發送スヘシ原籍地戶長ニ於テ之ヲ受領シタルトキハ其受領ノ年月日ヲ登記目錄送籍狀ノ發送年月日ノ下ニ記入シ直ニ右人籍ノ日ヲ以テ除籍スヘシ

寄留

第二十條 他府縣又ハ他郡區ヨリ寄留シタルノ届出アルトキハ入寄留簿ニ登記スヘシ其登記ハ總テ戶籍ノ例ニ依ル



第廿一條 入寄留簿ハ左ノ二種ニ分チ一種毎ニ之ヲ編製シ且一種中ニ一世帯ヲ爲ス者ト然ラサル者トヲ區別編製スヘシ但一世帯ヲ爲サ、ル者ハ一帳簿ニ列記スルモ妨ケナシ

一 他府縣人入寄留簿

一 他郡區人入寄留簿

第廿二條 寄留地ヲ去リタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其入寄留人名ニ朱線ヲ畫シ其別業ヲ爲スモノハ便宜之ヲ除帳簿ニ移スヘシ

第廿三條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルノ届書到達シタルトキハ出寄留簿ニ列記スヘシ

第廿四條 出寄留者復歸シタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ其人名ニ朱線ヲ畫スヘシ

(戶籍用紙雜形略ス)

○褒章條例 明治十四年十二月七日太政官布告

第六十三號

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別紙)

褒章條例

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者又ハ德行卓絶ナル者孝子順孫節婦義僕ノ類又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者疏河築堤修路墾田ノ業或ハ又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞効顯著ナル者ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム(廿三年勅令第七

六號ヲ以テ本條中改正追加)

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助セシ者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞効顯著ナル者ニ賜フモノトス

第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フルコトアルヘシ

第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版

一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條 褒章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處セラレタル

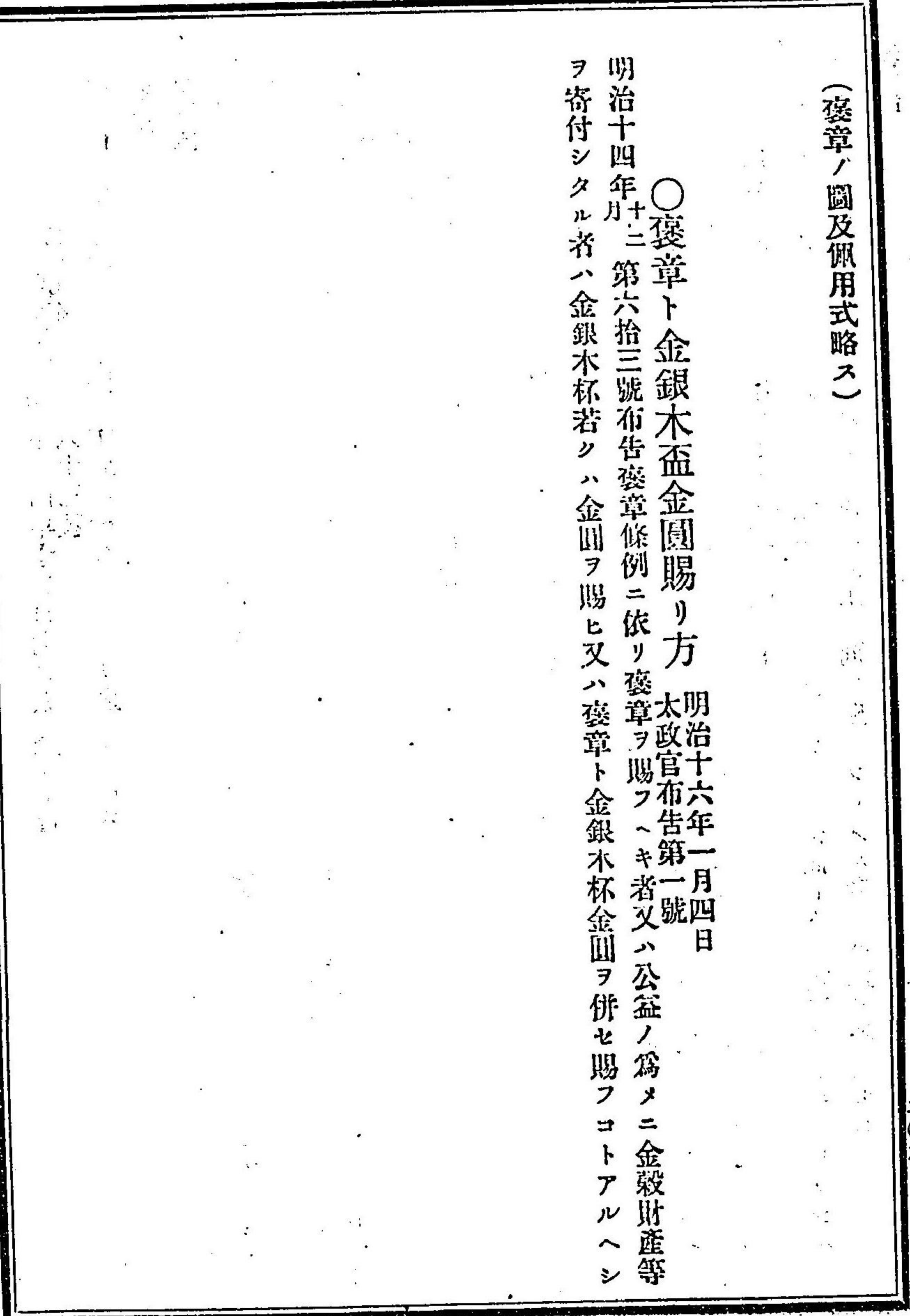
トキハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與セス



(褒章ノ圖及佩用式略ス)

1104

○褒章ト金銀木盃金圓賜リ方 明治十六年一月四日  
太政官布告第一號  
明治十四年<sup>十二</sup>第六拾三號布告褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者又ハ公益ノ爲メニ金穀財產等  
ヲ寄付シタル者ハ金銀木杯若クハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト金銀木杯金圓ヲ併セ賜フコトアルヘシ



○恤救規則

明治七年十二月八日  
太政官達第百六十二號

濟貧恤窮ハ人民相互ノ情誼ニ因テ其方法ヲ設ヘキ筈ニ候得共目下難差置無告ノ窮民ハ自今各地ノ  
遠近ニヨリ五十日以内ノ分左ノ規則ニ照シ取計置委曲內務省ヘ伺出此旨相達候事

恤救規則

- 一 極貧ノ者獨身ニテ癱疾ニ罹リ產業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米壹石八斗ノ積ヲ以テ給與ス  
ヘシ
- 一 獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身癱疾ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ  
準シ給與スヘシ
- 一 同獨身ニテ七十一年以上ノ者重病或ハ考衰シテ產業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米壹石八斗ノ  
積ヲ以テ給與スヘシ
- 一 獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身重病或ハ老衰シテ窮迫ノ者ハ  
本文ニ準シ給與スヘシ
- 一 同獨身ニテ疾病ニ罹リ產業ヲ營ム能ハサル者ニハ一日米<sup>男ハ三合  
女ハ二合</sup>ノ割ヲ以テ給與スヘシ
- 一 獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身病ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準  
シ給與スヘシ
- 一 同獨身ニテ十三年以下ノ者ニハ一ケ年米七斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ
- 一 獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與ス  
ヘシ
- 一 救助米ハ該地前月ノ下米相場ヲ以テ石代下ケ渡スヘキ事

褒章ト金銀木盃金圓賜リ方  
恤救規則

1107



## 學事

### ○地方學事通則

明治二十三年十月二日  
法律第八十九號

朕地方學事通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 地方學事通則

- 第一條 町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク
- 町村學校組合ニハ町村制第一百七條ヲ適用ス
- 第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲之ヲ數區ニ分畫ス
- 前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ市制第一百三條町村制第一百四條ノ規程ヲ適用ス
- 一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ
- 市制第六十條町村制第六十四條ノ區長並其代理者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行ス
- 第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村ニ關スル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得
- 第四條 町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ



第五條 町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若干校ノ設立維持ヲ一町村限り負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託ヲ一町村限り負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘシ  
兒童教育事務ノ委託ニ對スル報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條 府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條 市町村立學校長其他校員學務委員及區長並其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第三十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第八條 府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 府縣郡市町村町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ學校基本財産ヲ設クルコトヲ得

學校基本財産ハ單ニ某學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設ケルコトヲ得  
學校基本財産ノ廢設並支消賣却交換讓渡質入書入ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ  
學校基本財産ノ收入ヲ教育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 府縣郡市町村町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財産トナスヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財産トナスコトヲ得

府縣郡ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財産トナシ又ハ特ニ歲入ノ幾分ヲ增加シテ學校基本財産トナスコトヲ得

第十一條 従前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財産ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財産トナスコトヲ得

第十二條 府縣郡制市制町村制ニ規定シタル内務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就キテハ内務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

第十三條 本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム



○小學校令 明治廿三年十月六日  
勅令第二百十五號  
朕小學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小學校令

第一章 小學校ノ本旨及種類

第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス  
市町村若クハ町村學校組合又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ一人若クハ數人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス  
徒弟學校及實業補習學校モ亦小學校ノ種類トス

第二章 小學校ノ編制

第三條 尋常小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術體操トス  
土地ノ情況ニ依リ體操ヲ缺クコトヲ得又日本地理日本歷史圖畫唱歌手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

第四條 高等小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術日本地理日本歷史外國地理理科圖畫唱歌體操トス女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルモノトス  
土地ノ情況ニ依リ外國地理唱歌ノ一科目若クハ二科目ヲ缺クコトヲ得幾何ノ初步外國語農業商業手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第五條 尋常小學校ノ數科ト高等小學校ノ數科トヲ一校ニ併セ置クコトヲ得

第六條 高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ農科商科工科ノ一科若クハ數科ノ專修科ヲ置クコトヲ得其專修科ハ正教科ニ併セ置キ又ハ之ニ代フルモノトス

第七條 尋常小學校又ハ高等小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

第八條 尋常小學校ノ修業年限ハ三箇年又ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年三ヶ年又ハ四箇年トス

第九條 專修科補習科徒弟學校及實業補習學校ノ教科目及修業年限ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 小學校ノ某教科目ハ文部大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ之ヲ隨意科目トナシ又ハ之ヲ學習シ能ハサル兒童ニ課セサルコトヲ得

第十一條 第三條又ハ第四條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ加除スルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市參事會又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條ニ依リ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置キ又ハ其併置ヲ止ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條第七條又ハ第八條ニ依リ正教科專修科若クハ補習科ヲ設置廢止シ又ハ修業年限ヲ定ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 小學校教則ノ大綱ハ文部大臣之ヲ定ム  
府縣知事ハ小學校教則ノ大綱ニ基キ其府縣ノ小學校教則ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條 小學校ノ單級多級ノ制男女ヲ區別シ教授スヘキ場合多級ノ學校ニ學校長ヲ置クヘキ場



合一教員ノ教授ヲ得ヘキ兒童ノ數等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十四條 小學校ノ休業ハ日曜日ヲ除ク外毎年九十日ヲ超エサルモノトス

但徒第學校實業補習學校補習科等ニ就キテハ此限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ニ依ラサルコトヲ得  
傳染病ノ流行其他非常變災アルトキハ市内ニ在ル小學校ニ就キテハ府縣知事町村内ニ在ル小學校ニ就キテハ郡長ニ於テ一時之ヲ閉サシムヘシ其急迫ナル場合ニ於テハ市町村長ニ於テモ亦之ヲ閉ツルコトヲ得

第十五條 小學校ノ每週教授時間ノ制限及祝日大祭日ノ儀式等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十六條 小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員ニ於テ審査シ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ルヘシ

審査委員ハ府縣ニ置キ府縣官吏府縣參事會員尋常師範學校長教員及小學校教員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十七條 小學校ニ於テハ校舍校地校具體操場ヲ備ヘ又農科ヲ設クル小學校ニ於テハ農業練習場ヲ備フヘキモノトス

特別ノ事情アルトキハ體操場農業練習場ヲ備ヘサルコトヲ得此場合ニ於テハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事町村内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 校舍校地校具體操場農業練習場ハ非常變災ノ場合ヲ除ク外小學校ノ目的ニ關セサル事件ノ爲使用スルコトヲ得ス若シ特別ノ事情アリテ之ヲ使用セントスルトキハ市町村立小學校

ニ就キテハ其市町村長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事町村内ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 校舍校地校具體操場農業練習場ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣定ムル所ノ準則ニ基キ府縣知事ニ於テ土地ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第三章 就學

第二十條 兒童滿六歳ヨリ滿十四歳ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲシテ尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル間ハ就學セシムルノ義務アルモノトス

前項ノ義務ハ兒童ノ學齡ニ達シタル年ノ學年ノ始メヨリ生スルモノトス

第二十一條 貧窮ノ爲又ハ兒童ノ疾病ノ爲其他已ムテ得サル事故ノ爲學齡兒童ヲ就學セシムルコト能ハサルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ市町村長ニ申立ツヘシ

市町村長ハ前項ノ申立ニ依リ必要ナリト認ムルトキ又ハ前項ノ申立ナキモ猶必要ナリト認ムルトキハ學齡兒童若クハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ就キテ檢査ヲ行フコトヲ得

市町村長ハ本條第一項ノ申立又ハ第二項ノ檢査ニ依リ就學ヲ猶豫シ又ハ免除スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲ市町村立小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ出席セシムヘシ若シ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其市町村長ノ許可ヲ受クヘシ



第二十三條 傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹ル兒童又ハ一家中ニ傳染病者アル兒童又ハ不良ノ行爲アル兒童又ハ課業ニ堪ヘサル兒童等ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス

前項ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十四條 學齡兒童ノ就學及家庭教育等ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四章 小學校ノ設置

第二十五條 各市町村ニ於テ其市町村内ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置ス

町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ本令ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視ス

第二十六條 市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長其町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十七條 郡長ハ一町村ノ實力其町村ニ相當スヘキ尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スル場合ニ於テハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ

第二十八條 郡長ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認定スル場合又ハ一町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルモ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲適度ノ通學路程内ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能

ハスト認定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ  
一 其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムヘシ  
二 其町村ヲシテ其町村内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムヘシ  
郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲其兒童ヲシテ其町村ノ尋常小學校ニ通學セシムルコト能ハサル事情アリト認定スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ルヘシ  
郡長ハ町村學校組合ニシテ前項ノ事情アリト認定スル場合ニ於テハ本條第一項第二ノ例ニ依ルヘシ

第二十九條 郡長ハ第二十七條及第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲ設ケシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定ムルトキモ亦同シ  
郡長ハ第二十八條ニ依リ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ關係町村學校組合及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十條 府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得  
郡長ハ町村若クハ町村學校組合ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキ其他必要ノ事情アルトキハ町村内若クハ町村學校組合内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ町村若クハ町村學校組合ヲ分畫